

2008 AIDS文化フォーラムinよこはま

つながる

いま、



私にできること

第15回報告書

開催：2008年8月1日(金)～3日(日)

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜 組織委員会

2008年プログラム紹介

オープニング企画～HIVと出会ったとき！
 様々な人たちがHIVに出会った時の「状況」と「感情」をインタビューし、その時を即興劇で再現します。心うごく不思議な感動体験の時間です。
 (劇団プレイバックス+参加者の皆さん)

～特別企画～ P 7
 徹底討論 イス、性教育に求められるものは何か
 (安藤晴敏 岩室紳也 会場の皆様)
 宗教とイスを考えるPart3
 牧山強美神父(カトリックサンスルピス修道会)、古川潤哉僧侶(浄土真宗本願寺派)、吉田光明住職(曹洞宗新光寺)、コーディネーター 岩室紳也
 特別企画 夜回り先生(水谷修) 事前申込制
 PEER(心に響くピア教育の実践) 10代の中絶 イス・性感染症 高校生とセックス (遠見才希子)

～若者の視点から～ P 12
 学ぼう！性のコト～携帯で学ぶ性教室～(株式会社ジ-エ-企画)
 妊婦さんが語るぶっちゃけ腹話術トーク(JOINT&HEART)
 若者とインターネット・携帯を考える～ブログが語るネット問題の数々～
 (インターネット博物館 宮崎豊久)
 「境界線」が恋愛の対処法(NPOジャパンアライヴ)
 愛されるかもしれないカフェ(HAATAS)
 優しさってなにさ！?あなたと私とHIV/AIDS
 (ワイズユースクラブ 横浜-Y3、ワイズユースクラブ 東京-Y3)
 ピアってほんとは何なのさ?
 (Link-Rやなぎ、長野Happy Life PEERSサチカ)
 学生のためのセハラ防止ワークショップ
 (特定非営利活動法人エンパワメントかながわ)

～教育の視点から～ P 16
 北沢杏子の「イスの授業」(北沢杏子 性を語る会(ア-ニ出版))
 どうしていますか「性・イス」教育～保健福祉事務所の医師・保健師による実践例の紹介～(神奈川県小田原保健福祉事務所 中瀬耕作 神奈川県足柄上保健福祉事務所 山本恵子)
 生徒に聞かせたい「生きる」トーク！Positive with HIV!
 (パトリック&紳也)
 心に響くピア教育とは 医学生からのメッセージ(遠見才希子)
 AIDS予防のための小中高等学校の系統的性教育！
 (PNY(びにい Peer Network Yamagata))
 高校と大学で伝えるHIV/AIDS
 (桜屋伝衛門+高橋かん奈+山田雅子)
 イス/クソ研究の最前線 横浜市大医学部分子生体防御学
 島田勝准教授 (AIDSネットワーク横浜)
 避妊と性感染症のエキスパートになろう！医学部5年生に行う性教育
 (埼玉医科大学 産婦人科 鈴木幸子)
 校長が行うAIDS教育(神奈川県立津久井高等学校 安藤晴敏)
 Power Pointを駆使したイス教育～Power Point差し上げます～
 (地域医療振興協会 岩室紳也)
 思春期の性～いま、何を、どう伝えるか～
 (地域医療振興協会 岩室紳也)
 親OYAカフェ 子どもと性のこと話せますか？
 (おとなのしゃべり場)
 中学・高等学校で伝えるHIV/AIDS—出前授業の実践
 (山村まゆみ+桜屋伝衛門+岡島龍彦)
 世界がもし100人の村だったら～HIV/AIDSパ-ジョン
 (横浜YMCA ACT)

～患者と医療者の視点から～ P 24
 現在のHIV、イス治療とは？ドクターに聞く！(根岸昌功&洪久夫)

～文化の視点から～ P 25
 牧山神父を囲んでの分かち合い(カリスジャパンHIV/AIDSデスク)
 イス・人権教育への土壌づくり-「屋根の上のサワ」を読む-
 (PHILIPさがみ・ロージナの会)

～国際の視点から～ P 26
 DVD上映ワト・コンサート&ドキュメンタリー～ウガンダのイス孤児～
 (ワト・ジャパン)
 国際ボランティア@タイ(横浜YMCA かながわレッドリボンプラザ)
 「生きる」から考えるHIV/AIDS(国際協力研究会PEACE)

～社会問題の視点から～ P 28
 あなたはどう伝えますか？「同性愛・多様なセクシュアリティと教育」
 (横浜Cruiseネットワーク)
 薬害イスを風化させないために(薬害イスを考える山の手の会)

～検査・保健所の視点から～ P 29
 AIDS対策を考える保健師の会
 (PNY(びにい Peer Network Yamagata))

～PWA/H(HIVに感染している人々)の視点から～ P 30
 神様がくれたHIV～HIV感染がわかってから12年～(北山翔子)
 陽性者手記朗読会-H.I.VoiceからLiving Togetherへ-(PHILIP+)
 学生とHIV感染者 洪久夫によるライブトーク
 (ひさおの部屋サイトネットワーク)
 料理長の話「感染者と食事会のメニュー」(ぼーとたまがわ)

～医療の視点から～ P 32
 「神奈川県におけるHIV/AIDS診療の現状」
 (横浜市立大学付属病院 上田敦久、友田安政)
 HIV感染症の最新事情
 (横浜市立市民病院感染症内科 立川夏夫)
 「妊婦のHIV検査と母子感染対策の最新情報」
 (帝京大学 喜多恒和、国立国際医療センター 大金美和、イス予防財団 矢永由里子、神奈川県健康増進課)
 HIV/AIDSの歯科治療の実践(カサヤ歯科クリニック 糟谷潤)
 演劇による中高年層啓発への挑戦～いきなりイス発症の多い、長野県佐久地域での取り組み
 (佐久総合病院 高山義浩、加藤琢真)

～人権の視点から・その他～ P 35
 職場におけるHIV/AIDS
 (NGO-労働組合国際協働フォーラム HIV/イス等感染症グループ)
 米国西マサチューセッツ地域のAIDS事情～地域・州・連邦の政策課題～
 (イスを伝えるネットワーク(TENCAI))
 男性の心の傷つきと向き合う～米国西マサチューセッツの先進事例紹介
 (イスを伝えるネットワーク(TENCAI))
 人身売買とHIV/AIDS(エセフ支援市民団体ふれきしる)
 日本における人身売買～ホットラインの向こう側
 (てのひら～人身売買に立ち向かう会)

～展示～ AIDSカスケネット倶楽部 ATACinNARA NGOアライフの会 NPOジャパンアライヴ PHILIP湘南 アジアの女性と子どもネットワーク 株式会社セ-エ- 性を語る会(ア-ニ出版) 東海大学国際交流サークル藍紅 かながわけん健康増進課 かながわレインボーセンタSHIP(横浜Cruiseネットワーク) かながわレッドリボンプラザ(横浜YMCA) カリスジャパン 希望の家を支える会 チョーディーの会 てのひら～人身売買に立ち向かう会 日本家族計画協会 ボリスプロジェクトジャパン 日本エセフ協会神奈川県支部 ふれきしる 横浜AIDS市民活動センター 横浜YWCA ワト・ジャパン 特別協力:神奈川県立舞岡高校茶道部

開会式

<組織委員長あいさつ>

AIDS文化フォーラムが15年続いてきたのは、「文化」と名づけたところにあるのではないかと思います。文化は、長い年月をかけて築かれていきます。広く社会の人々がAIDSを受容していく文化を形成していく概念には、時間がかかります。AIDSは、単なる病気というだけでなく性的問題という人間の命の根源の問題から、差別や貧困の問題、教育の問題、啓発や教育、途上国の社会開発等、社会の様々な課題が見えてくる多様性を持っています。このフォーラムは第1回から、AIDSに関わる医療関係者だけでなく、当事者を含む多様な市民活動団体が参画する市民による手づくりの実行員会で進められて来たのが特色です。近年は、アジア・アフリカなど途上国を支援するNPO、NGOや学校関係者の参加が増えてきています。

ある人は、平和とは、ひとり一人の人格、人権が尊重される社会であり、差別や貧困がない社会だと言われます。そういう意味では、差別と貧困とも深くかかわるAIDSを考えるこのフォーラムは、人が人らしく生きるための人権運動であり、平和を生み出す運動でもあります。今年のフォーラムでも、AIDSを通して孤立の道を生み出すのではなく、AIDSを通して共に生き、社会的な連帯を生み出す、つながり、つながる、そして「いま、私にできること」を発見する機会となりますよう願っています。



「つながり」を通しHIV/ エイズの理解を深めた

AIDS文化フォーラムに4100人が参加



国内外においてHIV感染者、エイズ患者が増加する中で、市民の立場から幅広くエイズについて考えていくAIDS文化フォーラム（同組織委員会主催、横浜YMCA事務局）が、八月一日〜三日にかながわ県民センター（横浜・市西区）で開催された。

横浜YMCA広報紙
「横浜青年」2008年9月号

のプレイバックが即興で演じるというもので、大切な人をエイズで亡くした人の思い、HIV感染者であること、理由に恋人との別れを体験した女性の思いなどが劇団員によって演じられ、参加者はそれぞれの思いにつながった。フォーラムでは若者、教育、医療、国際、PWA（ハーン

▲参加者の思いを即興で演じたプレイバック

開会式では、組織委員長を務める横浜YMCAの田口努総主事が挨拶し、「三日間で多様な課題を学びそれぞれが繋がって何ができるかを考える機会としてください」と述べた。

オープニングイベントは、会場に集まった参加者のHIV・エイズに関する思いを劇団

今年で十五回目を迎えたフォーラムでは、「つながる～いま私にできること」をテーマに、教育、国際、患者、感染者への支援や予防、医療など幅広い分野で三日間で七十の講座、展示が行われ、全国から昨年よりも約五百人多い延べ四千七百七十人が参加した。



ンウイルスエイズ）等の視点から多様な発表プログラムが行われた。とくに若者や青少年を対象とした啓発教育についての講座が数多く開かれ、ピアエデュケーションから小・中・高校・大学などでのエイズ教育の実践についての発表やワークショップのほか、最終日には徹底討論「エイズ・性教育に求められるものとはなにか」が行われ、エイズや性教育に関して多くの意見、情報が交わされた。

AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会企画

オープニング プレイバックシアター

『HIVに出会った時!』 プレイバックカーズ

プレイバックカーズはニューヨークで生まれた台本なしの即興劇であるプレイバックシアターを「楽しみ・深め・広める」ことを目的に結成されたプロの劇団です。プレイバックカーズがHIVに出会った時の「状況」と「感情」を来場者にインタビューし、その時その場面を即興劇で再現しました。

語る本人は自らの体験を追体験し、観客は自らの体験のように疑似体験することで、なぜか涙を流している自分を発見する...心うごく不思議な感動体験の時間でした。

導 入 手法：動く彫刻

フォーラムへの思いや期待する事をインタビューし、体と声で表現する

今年も自分の成長を確認出来る場にしたい。
毎年発見があり、出会いもあり、世界が広がるので、楽しみ。
ボランティア5年目、自分が何が出来るのかを見つけたい。
秋の高校生エイズフォーラムに関わる。それぞれ協力しあって、つながっていただけたいと思う。
8回目の参加。母に誘われたのがきっかけだが、感染者の方が明るいのに一番驚いた。
3年越しの思いでようやく参加。試験中だが、参加出来たワクワクの気持ちで一杯。



即興による再現ドラマ 手法：ストーリー

「Aさんとの思い出」

Aさんとは医療従事者と患者さんとして出会った。次第に家族ぐるみのつきあいになり、夫婦に間違えられるほどになった。新しい薬が出来、奇跡が起きるかもしれないと思った矢先、彼の病状は悪化し亡くなった。細かい事にこだわりがあり、おちゃめなAさん。HIV/AIDSの活動をまだまだ一緒にやりたかった。彼の死後、たくさん後悔が残る、しばらく活動の意味も見えなくなった。しかし彼のお母さんから「生前あなたの話をよく聞いていました」と聞かされたことが救いになった。



「支援ではなく、協力」

タイのエイズ孤児を支援するスタディツアーに参加した時、ベラという少女と親しくなった。彼女は自分の話を色々してくれ、彼まで紹介してくれた。重く大変な人たちを支援しようという私の気持ちは見事に覆され、友人として出来る協力をしたいという思いになった。日本に帰国後母が病気になったが、タイの彼女たちの境遇を思い、再度タイを訪れた。逆境にめげない彼らに逆に勇気づけられて帰ってきた。

「彼がくれたプレゼント」

彼から突然の別れを告げられた私は、戸惑いと信じられない気持ちで一杯になった。将来の結婚を考えての結論らしい。感染を承知の上で付き合った彼は理解してくれていると思いこんでいた。その事を境に今まで押し込めていた悲しみ、怒り、後悔等様々な思いが噴き出してきた。思い返すと感染後自分の感情をあまり見てこなかった。周りのサポートもあり、どっぷり感情に入ると両親に対する感謝が生まれた。「生んでくれてありがとう」不思議な気持ちになった。

ストーリー掲載にあたり、私たちは、ストーリーを語ってくださった方(テラー)のプライバシー保護のために、以下のことを遵守しています。
・事前にテラーの了解を得ています。 ・テラーが特定できないように、表現に配慮しています。

まとめ 私にできることはなにか？ 手法：トランスフォーメーション

インタビューし、からだで表現

人の立場や気持ちがわかる感性を持つこと。
組合を通して実情を伝えていきたい。
感染していても、普通に明るく生きていることをわかってもらいたい。
差別がなくなったらいい。

来場者感想：

とても感動しました。初めはよく分からなかったけれど、いつの間にか引き込まれてしまいました。(神奈川県 30代 保健医療関係)

じわじわと世界に吸い込まれて行きました。特に後半の一人一人のエピソードを掘り下げたパフォーマンスがよかったです。(長崎県 20代 学生)

はじめて、みさせていただきました。ほんの少しのエピソードから、相手の立場で即興を行うなんてすごいです。(福岡県 30代 保健医療関係)

人の言葉を劇にすることで、追体験するという内容が面白かったです。自分の立場から何かすること、他人の気持ちにつながることは同義なのだと感じました。(京都府 20代 学生)

プレイバックによる演劇によって体験者の気持ちを少し強く感じられた気がしました。(静岡県 20代 学生)
AIDSを中1の時に見た人権ビデオで知って、いま私にもできることがあるかと思って参加しました。AIDSについてわからなかったことが知れて良かったです。とても貴重な体験でした。(群馬県 10代 学生)

HIV/AIDS担当だった保健師さん、エイズ禍のタイの子どもたち支援を思い立った大学生、HIVキャリア12年の北山さん…それぞれの出会った経験や、思いが語られ、辛い経験を通してやっと気づいた本当に大切なこと…それをプレイバックシアターの方たち3人が見事に演じて情感として伝えてくれる…心の迷いやうめきや深い悲しみ、それを乗り越えて支え合ってくれる人たちの手、そんな言葉にならないものを短い寸劇の中に丁寧に表現して伝えることの素晴らしさに打たれました。(千葉県 50代 市民グループ)

即興劇で感性がすばらしい。また自分からみんなに伝えられる勇気とあたたかい気持ちにありがとう。(神奈川県 50代 保健医療関係)

開会直後からすばらしい内容でおどろきました。お話しして下さった方、演じて下さった方、それぞれに感動しました。感謝です。感じたことは、自分の命、いっしょうけんめい生きていこう！！ということです。(神奈川県 40代)

入場者数が多く驚きました。一人一人の気持ちを丁寧にひろってくれるプレイバックシアターの開会式も面白いなと思いました。「文化」というのは広い深い人の生の細部そのものだと思います。それを中心にすえているのがこのフォーラムの良さだと思います。そこがつながっていけば素敵だなと思います。(神奈川県 50代 その他)

劇でやっていたのでとても分かりやすく、時々おもしろみもあってよかったです。(神奈川県 10代 学生)

いろいろな立場の人が様々な経験をしているんだなあと知って驚きました。皆いろいろな経験通して辛かったり、力が湧いたりしているんだ…と思いました。

(神奈川県 20代 学生)

自己開示と共感から表現、そして伝達から共感へと、拡がりを感じました。振り返りによって新たに気づかされることに気づかされました。ありがとうございました。(神奈川県 50代 教育関係)

対話型の講演会はいろいろな事を思い出させてくれました。学生時代のF・マーキュリーのエイズ感染の宣言、そして死。(私も衝撃を受けた一人です。)そして友人の死。現在中学校で性・エイズ教育に関わり今回中学生も一緒に参加しましたがより本当のことを知るために話をしていきたいと思います。(神奈川県 50代 教育関係)



ただいま開催中、AIDS文化フォーラムin横浜

毎年8月の最初の週末に開かれているAIDS文化フォーラムin横浜が、今年も1日から3日間の日程でスタートしました。 <http://www.yokohamaymca.org/AIDS/>

もう15回になるのですね。もちろん、長く続くにはそれだけの理由があるはず。その「それだけ」の質と規模を持続してこられたスタッフのパワーは半端なものではないでしょう。初日の午前中、取材で会場のかながわ県民センター(横浜駅西口徒歩5分)を訪れました。

開会式に続く、オープニング企画は「プレイバックシアター HIVに出会ったとき」。劇団プレイバックーズという即興劇のグループ

が、会場の参加者の体験談を聞き、台本なしで、打ち合わせもせず劇を演じていきます。HIVはエイズという病気の原因になるウイルスであり、そのウイルスに対する出会い方は当然ながら人によって様々です。HIVに感染している人、していない人、感染はしていないけれど身近に感染した知人がいる人、感染した人は知らないけれどエイズ対策に関心を持っている人。その体験談を聞いたすぐあとで、プレイバックーズの3人の役者さんが演じる即興劇。いや、スリリングでした。

体験を語った人が劇を見たあとで、逆に「どうしてそんなことまで分かるんですか」と驚く場面もありました。語られていない真実までが期せずして表現される。おそるべき表現力というか、体験の感化力というか。演劇のことはよく分かりませんが、即興だからこそ生まれる「ひらめき」といったものもあるのかもしれない。



長く続くには
それだけの理由が
あるはず



オープニングでドライブがかかったところで、引き上げなければならなかったのは残念ですが、今年は期間中の3日間で、(54の分科会/交流企画、21の展示ブース)があるそうです。プログラムは上記文化フォーラム・ウェブサイトどうぞ。

展示ブース会場の雰囲気。まだ初日の昼休みが始まったところだったので、各ブースとも設営作業中。それでも十分、にぎやかでした。

以前にも紹介したことがあります。AIDS文化フォーラムin横浜は、1994年8月、横浜で第10回国際エイズ会議が開催されたときに会議には参加しない地元の人たちにも参加できるイベントをということで第1回が行われました。以来、毎年夏の恒例行事となっています。国際会議の後でこれだけ長くインパクトを持つイベントが続いているということは、繰り返しますが、大変なことです。誰でも気軽に参加できるので、横浜にお越しの方はちょっとのぞいてみてください。

産経新聞編集委員 宮田一雄氏 記者ブログ No1171 8月1日より
URL: <http://miyata.iza.ne.jp/blog/entry/664745/>



エイズ教育シリーズ

徹底討論 エイズ、性教育に求められるものは何か

安藤敏晴 岩室紳也 会場の皆様
主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：学校でのエイズ教育を念頭に置いたセッションをエイズ教育シリーズとして紹介し、最終日の8月3日に『徹底討論～エイズ教育に求められるものは何か～』を行いました。

来場者感想：

エイズと性教育の難しさがよく分かった。学校だけの問題でなく、コミュニティや行政、子どもの発達段階とかもからんでいて本当に複雑だと思った。(10代 学生)

学校が悪い、文科省が悪いという責任論に終始する事が多いテーマだったが、本質的な部分を事実に基づいて議論できたと思う。いかにこの議論をアクションにつなげるかが今後の課題だと思った。(20代 保健医療学生)

“セクシャルマイノリティへの配慮”は、学校現場の教師も性教育の場面でできるという内容発言がありましたが、マイノリティを尊重するかのような発言はしていても、実際は「気持ち悪い、得体が知れない」というような態度や行動をとっていたら、それは生徒にも伝わってしまうし、結局教える側の認識や意識が問われる事だと思います。(40代 その他)

HIV予防は学校でやらなければ！ と思っていました。しかし、私の話を聞き、学校側が必要を感じてないものをムリして動かすのはムリであり、校長や養護の意識によるものが大きいと思いました。できることから、少しずつ行って行きたいです。(30代 保健医療関係)

どんな展開になるのか・・・と思いながら聴いていました。フロアから様々な立場の方の様々な心、考えを聴けて勉強になりました。まずは保健の教科書を買ってみます。そして、人と人とのつながりを見つけ、つけたものは大切に、次のつながりにつなげていきたいです。(20代 学生)

現役の教師の参加がまずスゴイの一言。勇気あるなと思います。地域活動としてどこまで根付いていくのか、期待したい。(30代 NGO/NPO)



教える側の態度や行動が
生徒に伝わる

連絡先： 岩室紳也

〒102-0093東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館15階

(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

Tel:03-5212-9152 Fax:03-5211-0515 紳也 s HP:<http://iwamuro.jp/>



『宗教とエイズを考えるPart 3』

カトリックサンスルピス修道会 牧山強美神父

浄土真宗本願寺派 古川潤哉僧侶

曹洞宗新光寺 吉田光明住職

コーディネーター 岩室紳也

主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会



内容:3回目を迎えた「宗教とエイズ」、今年の場内はいつもと違う雰囲気、ホールはまるでライブハウス。キャップがイケてる長身の若者がステージ上でヒップホップ・ダンスを踊り始め、会場からは驚きの声もれた。バックスクリーンにはヴィジュアル版エイズ啓発。場内が明るくなり、3年連続登場の浄土真宗本願寺派僧侶、古川潤哉さん(佐賀県、浄誓寺)と初登場の2人、カトリック司祭、牧山強美さん(福岡県、サン・スルピス大神学院院長)と曹洞宗住職、吉田光明さん(佐賀県、新光寺)。吉田住職はライブハウスでダンサーとしてエイズ啓発活動をしているそうだ。岩室紳也氏の司会進行でそれぞれの思いや活動を語り合いました。

登山道(宗教、宗派)は違っても、頂上を目指すことは同じ。お互いのルートを認めて各々の視点からエイズを考え、それぞれの特性を生かして実行しているというお話は、聞いている私たちもいま自分達がここに存在している「縁(つながり)」を考えさせられました。

来場者感想:

普段宗教のことを考える機会がないので大変勉強になりました。キリスト教、仏教でそれぞれ考えはちがっても、本質は人がどうやって、より豊かに生きてゆくかを問うているのだと気づかされました。(東京都 20代 団体職員)

「宗教」というと「自分とは別世界のもの」というイメージがありましたが、今日の講演を聴いて、とても哲学的なものだと思いました。なじみがあまり無い分野の話だったのでとても興味深かったです。(長崎県 20代 学生)

AIDSをきっかけとして、宗教の存在を考えさせられる非常に貴重な時間でした。現状を受け入れるための一つの方法としての宗教として日本人の中でもっと身近になればもう少し社会全体が優しく過ごしやすいような気がします。余談ですが毎朝仏壇に拝んでいましたが夕方(帰宅後)も拝むようにしたいと思いました。ありがとうございます。九州の方ばかりだったので嬉しかったです。九州でももっとこういう語り合う場があるといいですが。(福岡県 30代 保健医療関係)

最初のヒップホップの開始から驚かされましたが、内容はとても深くまだまだ語り合

癒しや救いが
宗教の枠を超えて
つながる



宗教者はどう考える？

司祭、僧侶 AIDS語る

先進国の中で、日本は唯一AIDS(エイズ)患者が増加している状況にある。こうした現状の中で、ことし十五回目となる「AIDS文化フォーラムin横浜」が八月一日から三日間、横浜市のかながわ県民センターで開催され、講演、ワークショップ(参加型セミナー)、展示など五十以上の催しを通して、医療・保健・教育・差別・人権などさまざまな視点でHIV(エイズウイルス)／AIDSへの学びを深めた。

AIDS文化フォーラムin横浜



パネルディスカッションでは牧山強美神父(右から2人目)が発言した

パネルディスカッション「宗教とエイズを考える Part3」では、宗教者の立場から、日本カトリック司教協議会カリタスジャパン「HIV／AIDSデスク」委員の牧山強美神父(サン・スルピス司祭)と古川潤哉僧侶(浄土真宗本願寺派)、吉田光明住職(曹洞宗新光寺)が発言した。一般の人々にとって

「カトリック教会は、コンドーム禁止・同性愛禁止」というイメージが強いというが、牧山神父はこう語った。

「キリスト教の本質は、イエスの愛の教えで、病者など最も苦しむ人々に声を掛け、病者を癒やし、その人をありのままに受け入れることです。コンドームを使用しただけでなく、また同性愛者の人間性を否定するものでもありません。本当の宗教は、私たちがより良く生きるためにあります。私たちはさまざまな宗教者と協力して、病者を癒やし、生きる喜びを伝える使命を果たさ

なくてはなりません。そのメッセージが人々にまだ届いていません」

一方、佐賀エイズ研究会のメンバーである古川僧侶は、「佐賀県は保守的な土地柄なので、HIV感染者が病気のことを打ち明けにくい土壌がある。彼らへの偏見や差別をどうにかしたいと思いつつながら、攻め入りにくい現状があり、またエイズに関心のあるお坊さんも少ない」と話した。

こうした地域状況を踏まえて古川僧侶は、出会い系サイトを利用する若者たちの「書き込み」を読み、彼らの考え方や悩みを調査し、若者たちに直接働き掛ける方法として、「カトリック教会は、コンドーム禁止・同性愛禁止」というイメージが強いというが、牧山神父はこう語った。

「カトリック教会は、コンドーム禁止・同性愛禁止」というイメージが強いというが、牧山神父はこう語った。

「キリスト教の本質は、イエスの愛の教えで、病者など最も苦しむ人々に声を掛け、病者を癒やし、その人をありのままに受け入れることです。コンドームを使用しただけでなく、また同性愛者の人間性を否定するものでもありません。本当の宗教は、私たちがより良く生きるためにあります。私たちはさまざまな宗教者と協力して、病者を癒やし、生きる喜びを伝える使命を果たさなくてはなりません。そのメッセージが人々にまだ届いていません」

たい感動がありました。仏教の方は葬儀仏教になっていることに負い目を感じているように聞くことがあります。教典の中のことをわかりやすく説明されることが出来る方なので、お葬式や法事の時を使いもっとも語りかけてほしいと思います。(大阪府 50代 保健医療関係)

生活に密着した信仰のあり方も私自身がフォーラムに参加したことも、「人と人とのつながり」が一つのキーワードであると感じました。(大阪府 20代 学生)

中・高と浄土真宗西本願寺の教えを学び卒業いたしました。そのころは授業の一環にしかすぎず「あ～はいはい」で聞き流していました。大人になり、不自由にもなり、知を得、自由や平和を求めて、乏しい思いをした時、聞き流していたはずの、アノコバが日々の糧になっておりました。「宗教とエイズ」と言うよりは、『文化とエイズ』『救いとエイズ』と、色々なとらえ方ができました。「生と死」昔々はもっとも近づいた気がしました。(もっとも昔は知らないですけど!)難しいです。はい。宗派や教えが違って一緒に本当に活動ができ語り合えたならば戦争は?と思いました。深すぎて発言はできません。吉田光明住職のダンスがステキでした。「AIDSなんかどーでもいーと思って生きる」「死ぬ」を知らず、「今さえ楽しければイイ」と思っている若い子たちに、ダンスをつなげてAIDS・SEX・ドラッグを正しく教えられるのではないかと思いました。ツカミはOKだと思います。(東京都 20代)

3人の宗教家の方がそれぞれ際だっていて、癒しや救いが宗派の枠を超えて理解でき、希望もてた。(神奈川県 40代 NGO/NPO)

若い宗教家の方のダンスすてきでした(もちろんお話も)。フォーラム全体で若い方の参加が少ないようです。こんなすてきな若いダンスの宗教家の方にお力を頂きたい。遠くからありがとうございます。(神奈川県 50代 主婦)

ほんとうに「共に生きる」ということを感じました。(神奈川県 60代 主婦)

AIDS文化フォーラムin横浜

今回初めて参加しましたが、とても楽しいことだと思いました。学校でもHIV、AIDSの授業もしてほしいが、身近に感じようになりません。

M.W

て、ヒップホップ・ダンスの吉田住職や医師、看護学生らと協力し、地元のリイブハウスを訪れ、ダンスイベントを盛り込みながら若者たちへのエイズ啓発教育を実践することもある。

同フォーラムの主催は「AIDS文化フォーラムin横浜」組織委員会、構成メンバーは、カトリック横浜教区や横浜いのちの電話、横浜YMCAなど七団体。今回はカリタスジャパンが、フォーラム展示会場でHIV／AIDSデスクや教会の取り組みを紹介するほか、ワークショップ「牧山神父を囲んでの分かち合い」も主催した。

その中で、カトリック教会内には、第二バチカン公会議以前の「性」欲「罪」といった極端な考え方が依然としてあるため、信者の中にもHIV／AIDSへの偏見が残っている実情があり、HIV感染者が教会に「救い」を求めてきたとしても、その受け皿がまだ十分でないことを憂慮する声も上がった。

牧山神父は「教会が性的なものを過度に罪悪視してきた姿勢について反省すると同時に、しかしまた、「性」が娯楽として乱用される現代社会にあつては、真実の愛とは何かを同時に伝えていく必要がある」と語っていた。

夜回り先生 水谷修

主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会



内容：水谷修さん自身が「横浜で講演するのはAIDS文化フォーラム in 横浜だけ」と話す姿は実は、本当は「もっと横浜で話したい」という思いの裏返し。HIV/AIDSも薬物もリスクカットも一人ひとりが様々なストレスと向き合った結果です。若者たちには「いいじゃない いいんだよ」と受け入れつつも、大人たちには「もっとしっかりしようよ」と身を粉にして訴えかけてくれる姿勢は、とかく楽な方向に流されてしまう私自身へのエールと感じています(岩室紳也)

来場者感想：

水谷先生の講演はいつも心に響きます。美しいものをみること、やさしい声かけ、やってみようと思います。(岡山県 20代 教育関係)

水谷先生のことはひとつひとつに重みがあって、心に響きました。とくにドラッグのことについてはあまりにも辛くて本当に心に残りました。(10代 学生)

「命をつなぐ」というメッセージは簡単な言葉ですが、とても深く大きな言葉です。それを心を込めて伝えていきたいと思います。(大阪府 50代 保健医療関係)

水谷先生の講演会は3回目でも水谷先生には励まされ、勇気づけられています。親子関係も良くなりました。ありがとうございます。(東京都 50代 介護職) 大学生と接する中で、先生がお話する夜の世界に身をおく子の多くを身近に感じています。近くから、出来ることから、この世を考えていこうと思います。(神奈川県 20代 保健医療関係)

とても心に響くお話でした。私は県内中学校の養護教諭をしています。一人でも多くの生徒に伝えていくことが自分の使命だと感じました。(神奈川県 20代 教育関係)

こういうものは何回か聞いたことがありますが、今回のが一番心に響いてきました。これは私たちも聞く価値がありますが、私よりも私の親、おじいちゃん、おばあちゃんたちが聞いたほうがいいなと思いました。とてもいい話が聞けました。(神奈川県 10代 学生)

2時間ずっと話を聞いていて、考えさせられる話ばかりでした。子どもは花の種、ほめられること、怒られることの違いを学びました。(神奈川県 20代 学生)

初めて先生のお話を聞かせていただきました。とても心に響く言葉が多くて、涙が出てきました。こんな素晴らしい機会にあえて、すごく良かったです。(神奈川県 20代 学生)

初めて水谷先生の講演をナマで聞きました。愛がどれだけ大切なのか、心にまっすぐ伝わってくる思いに感動しました。(神奈川県 10代 学生)

初めて夜回り先生のお話を聞きました。19年間の間でとても汚れた部分がたくさんあることに気づきました。お話を聞いてとても心が洗われた気がします。講演を聞くことが出来てとても良かったです。(神奈川県 10代 学生)

子どもたちと大人が大きく関わっていることを考えていきたいと思います。(神奈川県 60代以上 傾聴ボランティア)

ただただ感動しました。やさしい言葉を使うこと、まずそこから始めます。(神奈川県 40代 半導体関係会社員)

一番胸に響いたのは、本当の教育とは、子どもが自分の可能性をのばせるように、大人が環境を整えることとおっしゃった事でした。一つ一つの言葉がしっかり心に届きました。(神奈川県 20代 その他)

自分は水谷先生の話の初めて聞いたのですが、テレビなどとは違い、先生の熱い情熱が伝わってくる貴重な体験ができました。もう一度聞きたいです。(神奈川県 10代)



愛がどれだけ大切なのか
心にまっすぐ伝わってくる



つながる～いま、私にできること～

2008年9月1日 家族と健康



本会のブースにもU-COM
コンドーム等の問合せが

第十五回「AIDS文化フォーラムin横浜」が八月一日～三日、かながわ県民センターで開催された。テーマは「つながる～いま、私にできること～」。講演や展示が行われ、本会もブースを出展して若者委員会(U-COM)の活動等を紹介した。地域における取り組みの一ツとして、J.A長野厚生連佐久総合病院の医師高山善浩さんと研修医の加藤珠真さんが、同病院における演劇による中高年層啓発について報告した。

2008 AIDS文化フォーラムin横浜 開催



の届出数は一・三〇五(平成十六年～十八年)と、東京大に次いで多い。エイズを発症して初めて感染に気付く割合が全園約三割に達し約六割と高く、感染経路は異性間の性的接触が約八割を占める。高山さんは「売買取手により中高年層に広がった」と述べ、同病院で中高年層を啓発の対象とした背景を説明した。同病院では昭和二十二年から毎年「病院祭」を開催し、終戦直後から演劇による住民への健康教育を行っている。「ホントは身近なエイズ」と題した二十五分間の演劇は、研修医三十一人が多忙な研修の合間を縫って準備を重ね、病院祭で上演された。演劇実施後、無料迅速検査の受診者が一か月四人から六十人に増え、啓発の効果が見られた。しかし増えたのは若者層で、中高年層へのアプローチの難しさが課題として挙げられた。次回は、平成二十一年八月七日～九日に開催される。

PEER (全3回) 遠見才希子

主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

聖マリアンナ医科大学4年生。紙芝居などを用いてPeer(仲間)の視点で全国の中高生に性を語っている。

内容:

10代の中絶

「日本で一日に何人の10代の女の子が中絶してると思う？」答えは95人(平成16年度)。中絶経験のある友人の手記を朗読。

エイズ・性感染症

性感染症感染をモデルにした「感染広がるゲーム」を行った後、3つのポイント(コンドームには正しい使い方がある、口でもうつる性感染症がある、不特定多数が危ないって本当?)を説明しました。

高校生とセックス

岩室紳也先生のHP上の記載「イマドキの若者は 寂しい からセックスする」や漫画NANAの主人公がピルを飲むシーンなどを紹介しました。

来場者感想:

フランクで切り込みやすくわかりやすかった。テンポもよく大変楽しかった。(20代)

遠見ちゃん、すごく成長しちゃってびっくりしました。(30代)

聞き手にとって身近な立場で語られる言葉が新鮮でした。自分でも少しでも取り入れて話が出来たらなと思いました。(30代 保健医療関係)

同じ大学生でこんな活動してる人がいることがすごいと感じました。私も何か動き出したいと思います。(20代 学生)

中学生がよく読む雑誌・ドラマのセリフから間違い探しをするのもネタとして面白いかな、と思いました。(20代 学生)



連絡先: 遠見才希子

ブログ<http://ameblo.jp/emmskk/>

講演依頼

<http://homepage2.nifty.com/iwamuro/emmi.html>

誰が感染してるか

わからない



学ぼう！性のコト～携帯で学ぶ性教室～

携帯で知る性知識コンテンツの紹介

主催：株式会社ジーエー企画

若者がかかえる性の悩み、性に関する疑問・質問などに焦点をあてて、わかりやすく紹介している携帯サイトを2005年からスタートして今年で丸3年が経過しました。携帯ならではの身近な感じと、いざという時にすぐに見ることができる有用性を大事にしています。

内容：今回の発表では、新しくスタートした企画を2つ紹介。“遊びながら学べる”をキーワードにゲーム感覚でトライできる『性知力検定』と、さまざまな人の意見を読み、自身もコメント参加できる『コミュニケーション道場』です。ともに参加型のコンテンツのため、若者にとって身近な携帯を使って、よりわかりやすく性について学んだりすることができます。また、コミュニケーション能力を高めるために、互いの意見を読み、それに答えるといった新しい試みをしています。

携帯会社がスタートする未成年者に対する有害サイト閲覧規制(フィルタリング)についても紹介。一番必要である若年層への性知識の情報提供が難しくなる可能性がでてくることも含めて、どのように性に関する正しい知識を広め、関心を持ってもらえるかが今後の課題です。

連絡先：株式会社ジーエー企画 担当 和田薫

〒101-0051東京都千代田区神田神保町1-7巖松堂ビル10F

Tel: 03-5283-5006 Fax: 03-5283-5416 E-mail: ga-wada*lake.ocn.ne.jp

妊婦さんが語るぶっちゃん腹話術トーク

～輝く子ども達へ 親と子の絆をつくるための教育プログラム～

主催：JOINT & HEART (畠山雅行・中井幸永・岩本雅子)

思いのまま感じたことを伝えるために腹話術を用いたコミュニケーション方法を分かりやすく広める活動をおこないます。

内容：エイズや結核は現在でも多くの健康被害者を出しており軽視できません。2010年頃に爆発的発生が予想されています。予防することはできないのでしょうか。

[目的] 健康腹話術の普及 行政の立場でなく、行政にできない隙間をうめる

結核・感染症の予防 [対象者] 小学生 中学生 青少年 高齢者 その他～

幼児・妊婦など。[ねらい] うなずきやあいづちだけでなく子どもを正しく理解して子ども

の事を知ろうと努力する態度を示してあげる。些細な(ささいな)事でも受け止めて

あげられる親と子の関係づくり [プログラム] 訊く・聞く・聴く 教育プログラムvol.1:

自分が妊婦になった時をイメージしてください。

ママ：ママのお腹の中にいた時どうだった？ 太郎：白くて気持ちよかった。お風呂に入ってた。

教育プログラムvol.2:命のつながりって、すばらしい。

ママ：太郎に命をくれた人は誰だか分かる？ 太郎：それは・・・パパとママ。

わらってげんきになろう。みんなで腹話術にチャレンジ！！

来場者感想：腹話術に関心ができた。新しいコミュニケーション方法を知った。子どもとの関わり方が学べた。人形と話をすることは生まれて初めての経験でした。何を話せばいいのかを考えながら人形と話すのは難しかった。人形と話すことによって相手の状況を考えながら話しかけている事を確認した。傾聴方法は役立った。

[まとめ] HEALTHY HAPPY FORUM 参加者に人形との会話を実際に経験してもらいました。今回はプロダクティブヘルス/ライツに腹話術を広げました。来年もがんばって参加いたします。

連絡先：代表 畠山雅行 Fax: 0743 - 78 - 9841 E-mail: m-hatake*m4.kcn.ne.jp



新しい
コミュニケーション
方法

若者とインターネット・携帯を考える ～プロが語るネット問題の数々～

主催：インターネット博物館 宮崎豊久

内容：若者たちがインターネットでトラブルに巻き込まれる実態を具体的に紹介し、いま、どのような対策が求められているかを考えた。

来場者感想：

自分の力で犯罪を防止できる可能性があるんだという思いが強くなりました。(10代)

インターネットの原点を大切に思えるような思想が広まればよいと思った。(30代教育)

プロフ、ブログによる中学生の友人同士のトラブルは日常と化している現状で、学校では後処理の対応に追われています。保護者向けの研修会で聞いても、子どもの情報を見極める力はなかなか身につけていけない(40代教育)

インターネットのこわさを知った。自由なコミュニケーションのツールをどう使うか考えさせられた。(50代)

若い人達は大いに利用されているようですが、ほんの少ししか利用しない者には、安全なサイト以外は恐ろしくて、利用できません。何が危険なサイトなのか、今日の話で少しわかった気がします。(50代教育)

情報社会になり、自由になった反面、今まで無かった問題が発生していても対応がしにくいという事がわかりました。最初は自分で身を守れば良いと思っていましたがそうではなく、社会全体が変わっていかないと、何も解決しないのだなと思いました。自分だけが知っているではなく、周囲で理解していく事も大事という事もわかりました。(20代教育)

非常にショックを受けた！大2(男)、高3(女)の子持ちだが・・・当面何をどうすれば・・・？また非常に刺激的なテーマばかりで奥深い内容だと思いました。(60代以上 その他)



個人だけでなく
社会全体が
変わっていかないと

連絡先：インターネット博物館 <http://internetmuseum.org/>

「境界線」ダメ恋愛の対処法

Noとは言えない私～自分を愛し、守り、相手を尊重するために！

主催：Japan Alive (ジャパンアライブ)

「若者と生ノ性」「いのち」を取り巻く諸々のことを一緒に考えるNPOです。

内容：今回、「境界線」ダメ恋愛の対処法～NOと言えない私～自分を愛し、守り、相手を尊重するために～のワークショップを行いました。学生の方々も多く来てくださって嬉しかったです。

スキット(寸劇)による具体例やイラストを盛り込みながら、「境界線」とは何か？どうして必要なのか？ライフスキル、NOということがなぜ大切なのか？自分を大切にすること・・・などを楽しく学びました。スキットでは、2人のカップル役に登場してもらい、「過干渉」「彼女は彼のママ」「性の境界線」の例について演じてもらい、どこが悪いのかを皆で考えました。

看護師であり、ヘルスアドバイザーでイギリスのHIVクリニックでも働いた経験を持つナースくみからも、「性の境界線」を越えた場合にどんな結果がありうるかについても話していただきました。今後、ますます学校などでもワークショップを行なっていけたらと願っています。

連絡先：NPO Japan Alive (ジャパンアライブ)本部事務局
〒327-0003栃木県佐野市大橋町1617

(関東の他に、東北事務局、関西事務局、沖縄事務局等あり)

E-mail: info@japanalive.org URL : <http://www.japanalive.org>



愛されるかもしれないカフェ

主催：HAATAS(シェア・エイズボランティアチーム)



青年海外協力隊とも縁の深いISHAREの、国内向け予防啓発活動チームです。

内容：レクチャーのように一方的に来場者が聞くのではなく、来場者との語らいを主軸とし、性についてアットホームに語れる場の提供が目的です。

学生らによるワークショップ、ディスカッションが語りやすい空間を生み出し、普段、話題として扱いつらい話題に楽しく興じることが出来たように思います。

来場者感想：

楽しいワークショップでした。もっと中高生の参加があったらいいのに勿体ないです。(40代)

プログラム名から想像出来ず、それゆえ参加したのですが来てみて大正解、よかったです。知っているつもりでも、まだまだだなあと思いました。(40代 保健医療関係)

連絡先：HAATAS(シェア・エイズボランティアチーム)

〒110-0015東京都台東区東上野1-20-6丸幸ビル5階 Tel:03-5807-7581

優しさってなにさ!?あなたと私とHIV/AIDS

主催：ワイズユースクラブ横浜-Y3、ワイズユースクラブ東京-Y3

内容：トークでは若者自身が体験を交えながらHIVを通して「優しさ」とは何かを考え、手記の紹介やコンドーム・検査に関するエピソードなど身近な話題を展開。後半は「HIV/AIDSの基礎知識」、「日本におけるHIV/AIDSの現状・問題点」、「今後どのような活動が必要か」についてグループディスカッションを行い、基礎知識や検査に関する情報を得る場所が少ないこと、学校の性教育の内容の薄さ、保護者世代の理解の必要性、性情報の氾濫、子供を守る知識や行動が子供だけでなく大人にも不足していること、レクリエーションを入れて遊びながら理解を深めるなどの工夫、若者に魅力的に映る活動や、他団体との積極的な連携の必要性などが語られた。

知っているつもりでも
まだまだだなあと
思いました

来場者感想：

素直で率直な話が聞け、グループでの話し合いもよかった。(東京都 40代 会社員)

初めて参加したが若い人達の熱心な姿がとても印象的だった。初めは「E~ッ!!」というリアルな話でびっくりしたが参加できて良かった。(神奈川県 40代)

“話す場”になったと思う。楽しめました!!(神奈川県 20代 学生)

色々な年代の人がいて話せてよかった。(神奈川県 20代 学生)

若い人とよい話し合いができた。(神奈川県 60代以上)



連絡先：ワイズユースクラブ横浜-Y3

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜中央YMCA
NPOサポートセンター内

お電話は横浜中央YMCAにつながりますので、
「ワイズユースクラブ横浜の件で」とお伝えください。

2008AIDS文化フォーラムに参加して

神奈川県インターンシップ実習生 栗原美里

このフォーラムに今回始めて参加しました。いろんな方の講演を聞いていると新しい発見がたくさんあったり、胸がいっぱいになって涙が出てきたり…すごく貴重な体験でした。参加期間中、たくさんの人と関わることができて、自分の中でまた新しいつながりができたこと、すごく嬉しく感じます。たくさんの方に正しい知識をもって、理解してほしいという気持ちを強く感じました。このフォーラムがこれからも人のつながりをつくり続ける貴重な場として続いていくといいなと思いました。

ピアってほんとはなんなのさ!?

主催：サノチカ：佐野智香（長野HappyLife PEERS）

やなぎー：柳田正芳（Link-R代表）

ピア講座で知り合った二人が初コラボ！



内容：2本立てでワークショップを実施

1. 「ピア」とは何か。（サノチカ 担当）

「ピア」＝「性教育」ではない。思春期ピアカウンセラー・ピアエデュケーターとして活動して感じた違和感。大学生が高校生に性教育の講演をして感じたジェネレーションギャップ。大学生が他大学に講演に赴いて感じたやりにくさ。その原因は？「ピア」は、ピア活動の中で扱われる「トピック」と、参加する人の「属性」の共有によって成立する！ゲイコミュニティで性感染症予防啓発が進んでいるのは、「性感染症」というトピックが、「ゲイ」という属性に結びつけられているからだ！属性が違えば、トピックがズレれば、ピア（＝仲間）になり得ない！？

2. 理想的なピア支援のあり方とは。（やなぎー 担当）

若者は大人とは違う論理で動いている。彼らと協働する最大の魅力は、彼らのリアルな声を事業に反映できること。その声を確保するために、大人と比べて立場の弱い若者を守り、彼らの意見が引き出せるようにしなければいけない。そのような活動は、事業の担当になれば誰でもすぐにできるものではなく、素質と訓練を必要とする専門的職能なのである。

連絡先：Link-R（合同会社 登記・設立準備中）

E-mail: info@link-r.org メールいただければ柳田につながります

学生のためのセクハラ防止ワークショップ

主催：NPO法人エンパワメントかながわ

内容：現代の社会事情から高校生でバイトを始める生徒が増えている。そんな中で、バイト先、就職先でのハラスメントにどう対応していくか、そのすべをもっていないのが生徒たちの現状である。

私たちはこの問題を、特に社会に出る前の高校生、学生に対してエンパワメントしたいと考え、セクハラ防止プログラムを開発した。ワークショップ（参加型学習）の手法を用い、セクハラの実態や法律の知識と共に、「自分のことは自分で守っていいんだ」ということ、そのために何が出来るかを考えていく。

受講した生徒からは、自分もバイト先でセクハラされたがいやと言えなかったし、誰にも相談できなかったなどの感想が多数ある。また教員からも、バイト代としてお金をもらっているということで生徒が理不尽なハラスメントであっても我慢しているケースが多いとの話も聞く。

今回のAIDS文化フォーラムでは、一般の参加者にも自分のこととしてワークショップに参加してもらった。

来場者感想：

最新のセクハラ・パワハラへの対処法や相談機関への情報が得られてとてもよかった。

社会に出る前の学生にも受けさせたいと思いました。セクハラも含めて「暴力」というもの全般に対する意識の共有（共感）と教育が大事だと感じました。

連絡先：<http://www15.ocn.ne.jp/~empkng/>



「自分のことは
自分で守っていいんだ」
ということ
そのために
何が出来るかを考えていく

北沢杏子の「エイズの授業」

主催：北沢杏子 性を語る会（アーニ出版）

内容：新作ビデオ教材『からだを守る保健行動シリーズ』全3巻の中の「正しく知る！性感染症・エイズQ&A」（北沢杏子 脚本/演出・制作アーニ出版）を観せた。現在、日本の若者の間に広がっているSTD（性感染症）は想像を絶するもので、日本医師会の発表によると、例えばクラミジアの罹患者は100万～120万人。特に女子は自覚症状がないため罹患に気づかず、将来、子宮内膜症、卵管炎、そして子宮外妊娠、不妊症へと進むと言われている。また、STDに罹患しているとHIVの感染率は健康体に比べると5～6倍に跳ね上がる。つまり1回の性交でも感染しうるのだ。

このビデオに出演して頂いた赤枝六本木診療所の赤枝恒雄先生（産婦人科医）は、診療を受けにきた中・高校生がSTDに対していかに無知であるかを力説。ある日、来診した女性は既にエイズを発症しており、21歳の若さで死亡したという例を挙げている。ビデオ終了後、「性を語る会」の座付役者「だいにん座」（ボランティア）4人によるHIV感染予防のための『コンドームの正しいつけ方10か条』のロールプレイを行った。参加者の反響の中には“性教育バッシング”の現在、指導したくてもできない教育現場の苦しい立場の声が多かった。

連絡先：<http://www.ahni.co.jp/kitazawa/>

どうしてですか・性・エイズ教育～保健福祉事務所の医師・保健師による実践例の紹介～

主催：神奈川県小田原保健福祉事務所 中瀬耕作
神奈川県足柄上保健福祉事務所 山本恵子

内容：神奈川県小田原保健福祉事務所では「青少年エイズ・性感染症予防講演会」を実施している。対象は中学校・高等学校・養護学校・少年院等、地域により特色がある。今回は2地域の保健福祉事務所医師と保健師から、それぞれ講演で使用するプレゼンテーションを再現しながら、講演の留意点、生徒の反応などを交えながら紹介した。その後来場者から、事業予算をはじめ、男女それぞれへの教育内容についてなど、様々な質問・意見が寄せられた。

来場者感想：

生徒に理解してもらうための工夫が強く感じられた。指導の参考になった。（50代 教育関係者）

実際の教育で使用されたスライドや話、生徒の反応など説明に入っていて、とても勉強になった。（20代 保健関係者）

とてもわかりやすい内容だった。自分も少しでも多くの中高生に伝えていけたらと思う。テーマの「つながる～いま私にできること～」とても良い。自分ができていることを考え実行していきたい。（30代 教育関係者）

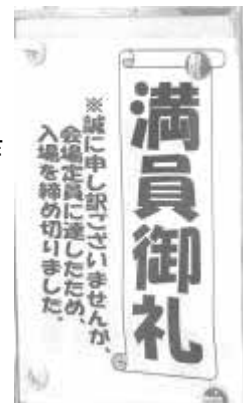
地域の方、NPOの方、医療の方のAIDSに対する危機感が伝わった。（30代 教育関係者）

連絡先：神奈川県小田原保健福祉事務所 保健予防課 中瀬耕作
〒250-0042小田原市荻窪350-1 Tel:0465-32-8000(内線3241)
E-mail: nakase.z6eq*pref.kanagawa.jp
神奈川県足柄上保健福祉事務所 保健予防課 山本恵子
〒258-0021足柄上郡開成町吉田島2489-2 Tel:0465-83-5111
(内線433) E-mail:yamamoto.c9vu*pref.kanagawa.jp



写真：「免疫システムとHIV感染のしくみ」を手人形で演じる「だいにん座」の面々。

自分も少しでも
多くの中・高生に
伝えていけたら



生徒に聞かせたい「生きる」トーク！ Positive with HIV!

主催：パトリック&紳也

内容：HIV positiveのパトリックと彼の主治医である岩室紳也医師が「生きる」をテーマに生徒に聞かせたいトークを再現しました。



来場者感想：

この年になって、またこんなに影響を受けられるお話を聞けるとは思いませんでした。(20代 教育関係、その他)

患者、医師なのが不思議でとてもすてきな関係だと思いました。等身大で話す姿勢、学ばせていただきました。(20代、その他)

「生きる」というテーマの中に、HIVがあるだけなんだなあ～と思いました。学校はHIVの話をすると思いついていないのではないのでしょうか？人の生き方の話なんだけど…って学校が気づけばいいのにとします。そうしたら子供が話を聞けるのに…と思いました。(40代助産師)

パトリックさんのポジティブな考え方と生き方に、ほんとに引き込まれました！自分で「考える」自分で選択する、人生どの場面でも必要なことがしっかり伝わってきました。HIV検査の場面でも同じことなんだと気づきました。(50代 NPO)

HIV(+)になってやりたいことを書き出し…一日一日大切に生きてこられたと思います。病気も何もなかったらどうなのか、私は一日を大切に生きているか、という？です。ボーナスポイントまだまだ続いてほしいと思います。まだまだお話を聞きたいです。ありがとうございます。(40代 保健医療)

病気も何もなかったら
どうなのか
私は一日を
大切に生きているか
という？

連絡先：岩室紳也 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館15階
(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター
Tel:03-5212-9152 Fax:03-5211-0515

心に響くピアエデュケーションとは 医学生からのメッセージ

主催：遠見才希子

聖マリアンナ医科大学4年生。紙芝居などを用いてPeer(仲間)の視点で全国の中高生に性を語っている。

内容：中高生向けの90分間の模擬授業を展開。

私が性教育におけるPeer(仲間)活動に携わるようになったきっかけである岩室紳也先生のHPを紹介。「イマドキの若者は 寂しい からセックスする」を見て気づいたこと。 HIV感染をモデルにしたNaOHとフェノールフタレインを使った「感染広がるゲーム」を参加者全員で自己紹介をしながら行った。 性感染症についてのポイント(性感染症はエイズだけじゃない、など)を紹介。 北山翔子さんの言葉「HIVは人を選ばない」を聞き私がHIV検査を受けたことや、タイのエイズ寺院を訪ねたエピソードを紹介。 体の仕組みをオリジナルキャラクター「子宮くん」で説明。自作の紙芝居。「高校時代、私が欲しかったのは もっと気軽に楽しくまじめに性を考える場」などと語った。 中絶を経験した友人の手記を朗読。 えんみちゃんからのメッセージ「1回きり」



来場者感想：

心に閉じ込めて生きてゆこうと思いました。お手紙涙とまりませんでした。(20代)

人生のうちに一度 (なるべく早いうちに)聞きたい話だと思いました。(30代)

遠見さんの等身大のお話が生徒の心に響くと感じました。(40代・教育関係)

連絡先：遠見才希子 ブログ <http://ameblo.jp/emmskk/>
講演依頼 <http://homepage2.nifty.com/iwamuro/emmi.html>

AIDS 予防のための小中高等学校の系統的性教育!

主催: PNY [びにい Peer Network Yamagata]

PHA、NGO、学生・PTA・教育者、医療関係者・行政等、様々なメンバーが対等な立場で共にAIDS/STIの予防対策を考える会です。

内容: 家庭・学校・地域で取り組む「生きるための心の教育」を系統的に継続することがどのようにAIDS予防につながるのかを中心にPNYからお話させていただきました。

来場者感想:

PNYとして「教育効果が見える教育」ってとてもうれしいですね。取り組んだ力(パワー)ってその分すごい量ですね。よいとこ取りをして、当保健所でも実施していきたいです。

性教育は子供をよく知っている担任がやるのがBEST。同感です。パワーポイントでとてもわかりやすい講義で、土曜日なので参加をためらっていましたが来てよかった。小学校に戻ってから児童に教える指標になりました。

中・高生向けに単発で性教育の講演を行っています。講演の前後のフォローは学校の先生にお任せになってしまうので、学校の先生を教育しなければいけないと思っていたところで、大変参考になりました。

性教育では自尊心を高めることが欠かせないと思っていた。今回のプログラムでそのヒントが見えてきたと思う。

皆さまからの温かいお言葉ありがとうございました。“性教育”は字の通り、“生きるための心の教育”です。子どもたちに「自分を大切にすること」を理解してもらえよう、今後も推進していきたいと思えます。

連絡先: 代表 渡會睦子 〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17 東京医療保健大学内 E-mail: mutsuko*mub.biglobe.ne.jp



「それをどう受け止め
行動するか」
の大切さを感じました

高校と大学で伝えるHIV/AIDS

主催: エイズ・サポート千葉& H.I.Voice Act協働企画(桜屋伝衛門+高橋かん奈+山田雅子)

内容: HIVポジティブ活動家、高校の養護教諭、元某看護学校の先生の3名が高校・大学でのエイズをめぐる授業について語る。

来場者感想:

授業のポイント、流れ、現状等々、よくわかりました。...山田先生の講義は、この10年間の試行錯誤してきた状況や、今の願い・想いがひしひしと伝わってきて印象深かったです。ここで学んだことを伝えていきたい。(福岡県 30代 保健医療関係)

「どういう情報か」より、「それをどう受けとめ行動するか」の大切さを感じました。(京都府 20代 学生)

学生にHIVに関する講習会をしていくとき、しっかり”自分と相手を大切にすることが大事”ということをお話して伝えていきたいと思いました。(山梨県 30代 保健医療関係)

高校生や大学生など性行動が始まっていたり、これから経験しようとしている人たちへの具体的な授業内容の展開が、とても参考になりました。「先(将来)のことも見据えてネ」と思う大人の目線と、目先のことや、彼や彼女に気に入られたい一心の若者たちと、コミュニケーションのとり方をこうして学び合うことの大切さを感じました。(千葉県 50代 NPO)

私も学生の時に授業を受けましたが、身近に感じなかったのか、印象に残っていません。今日、お話をお伺いして、とても関心を持ってたので参加できて良かったと思います。身近に感じられる授業や話ができる先生方が増えて下さると嬉しいです。私もできることからがんばります。(神奈川県 20代 保育士)



連絡先: エイズ・サポート千葉 Tel: 043-224-3463

E-mail: fvgw9740*mb.infoweb.ne.jp

H.I.Voice Act 岡島龍彦 Tel: 070-6656-8860

E-mail: tatu-hiko*mpd.biglobe.ne.jp

つながる～いま、私にできること～

エイズワクチン研究の最前線

横浜市大医学部分子生体防御学 島田勝准教授

主催：NPO法人AIDSネットワーク横浜（ANY）

ANYはAIDS予防啓発活動を目的に1993年2月に発足したボランティア団体です。これ以上感染者を増やさない為の電話相談、出前講座・啓発公演・人材育成。

内容：エイズの発症を抑える薬はある。予防ワクチンの研究がなされているが、現在は成功していない。

エイズ予防ワクチンが成功しなかった理由

- 1 HIVウイルスは変異が激しい
- 2 免疫細胞はHIV感染した細胞すべてを認識できるわけではない
- 3 HIVウイルスは免疫細胞を破壊する
- 4 適切な動物モデルがない
- 5 HIV感染の早期にメモリ免疫細胞を破壊する
- 6 欠損ウイルスワクチンは強力なメモリ免疫細胞を誘導できない
- 7 HIV潜伏場所(腸管リンパ節、局部リンパ節)に免疫細胞が少ない

エイズ治療ワクチンについて

横浜市立大学では2006年から有効性試験、ワクチンGMP製造、毒性試験、来年度から中国で臨床試験を行う予定。

最新ワクチン研究の知識を習得

連絡先：NPO法人AIDSネットワーク横浜

〒231-0015横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F横浜AIDS市民活動センター

Tel:045-201-8808 Fax:045-201-8809

E-mail: any*netpro.ne.jp URL: http://www.netpro.ne.jp/~any/



避妊と性感染症のエキスパートになろう！

医学部5年生に行う性教育

主催：埼玉医科大学産婦人科 鈴木幸子

内容： 8つの避妊法、挙げられますか？その利点と欠点は？、最新の避妊法を紹介、命に関わる性感染症ってこんなにあるんだね

ビデオ「私の出産」今回の発表では、大学病院で産婦人科病棟実習中の「医学部5年生4人」対「私ひとり」で行っている小講義のあと、中学・高校の性教育講演会でのオリジナル教材「私の分娩のビデオ」を上映しました。

【参加の想い】「大学1年生の、親元を離れたときに聞いておきたかった」「大学生といわず、むしろ社会人にこそこのような話を知らせるべき」という、医学生からの反応に背中を押され、今回、初めて発表での参加をさせていただきました。AIDS文化フォーラム運営委員の皆様のおかげで、たくさんの方にお集まりいただきました。

来場者感想：

自分が無知であることを痛感しました。復習し、人にきちんと伝えられるようにしたいです。(33歳女性)

自分自身を守るためにも、子供ができて、その子供を守るためにも、この知識を知ることは大切だと思いました。出産のビデオとても感動しました。(25歳女性)

今、この年で改めて性教育が受けられたことはとてもよかったと思います。(26歳女性)

連絡先： E-mail:sachiko*dr.com

自分自身を守るためにも
子供ができて
その子供を守るためにも



校長が行うAIDS教育

主催：神奈川県立津久井高等学校 安藤晴敏

内容：学校教育におけるAIDSは以前のような広がりや深まりを感じられなくなった。このフォーラムで広い意味での教育セッションはあるものの、学校教育と限定した内容は数少ない。しかし、来場されている方々に多くの学校関係者の姿を見かける。

学校における授業展開は学習指導要領の範疇で行う必要がある。毎年のようにこのスタンスは外して、学校におけるAIDS教育の実践紹介と課題の提示を行っている。今年の内容は4人の県立高校教員の授業内容を紹介した。各校が抱える課題等による違いはあるものの、教科書の内容で生徒に身につけて欲しい知識は押さえられていた。中には「ジョナサン君」を教材に取り上げ、母親との会話を通し、知識を広げた授業内容は懐かしくもあり、視点の捕らえどころに新しい発想を見た。

今年もそうではあるが、AIDS教育を通して、知識・理解だけではなく生徒の心へ入り込む私なりの授業内容も紹介させていただいた。若者の心が病んでいる昨今、限られた教科書の内容だけではなく、教師ひとり一人が生徒にメッセージを送り続ける必要を日々の学校現場で体感している。言いつくされているが、「生きる力」のメッセージである。

しかし、今年のフォーラムの様子を見ると学校教育における「AIDS教育」が停滞してしまいそうな様相に危機感を感じている。教壇を離れ5年になり、現在は地域を中心とした健康啓発活動を行っている私ではなく、来年は現場で積極的に取り組んでいる学校関係者のプレゼンテーションを期待したい。

今年もフォーラム全体を支えて頂いたボランティアの皆さん。私の拙いプレゼンに対し全面的にサポートして頂いたボランティアの皆さんに感謝申し上げます。

連絡先：神奈川県立津久井高等学校 安藤晴敏 Tel:045-784-1053(代表)

PowerPointを駆使したエイズ教育 ～PowerPoint差し上げます～

主催：(社)地域医療振興協会 岩室紳也

内容：HIV/AIDSを伝える際に情報伝達手段としてPowerPointは効果的な手法である。長年HIV/AIDSに関する啓発に取り組んできた立場から、PPを駆使したエイズ教育の一例を紹介し、そこで使用したPPを無料で提供した。

来場者感想：

印象に残ったこと。先生は10年以上前からの知り合いです。その頃の講演と比較して、自分の体験を通し語りかける事が、心に響くメッセージになることと感じました。(50代 保健医療関係)

エイズに限らず性教育を通じて、教えなくてはいけないポイントが見えた気がします。それは教えるというよりも本当につながるということなのですね。(30代 教育関係)

人にメッセージを伝えるということ、経験や思い、人格・様々な要素をバランスよく持つことの必要性を感じました。(20代 保健医療関係)

金子みすずが梅毒で亡くなった事を知った時、とてもショックでした。いろいろな切り口から語っていくために、これからも多くの事を学んで行きたいと思いました。(50代 その他)

連絡先：岩室紳也 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館15階
(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター
Tel:03-5212-9152 Fax:03-5211-0515 紳也 s HP:http://iwamuro.jp/



性教育・・・
それは教えるという
ことよりも
本当につながるという
ことなのですね



思春期の性～いま、何を、どう伝えるか～

主催：(社)地域医療振興協会 岩室紳也

内容：HIV/AIDSをはじめとした性感染症や望まない妊娠の増加といった結果で思春期の性を問題視していないだろうか。いま、何が問題なのか、そして何をどう伝えることが求められているのかを考えました。

来場者感想：

今の時代は確かにコミュニケーションの方法が、相手の顔を見ないで、メールや電話なのは共感できました。やっぱり人は、人とコミュニケーションをとらないと生きていけないと思うので、コミュニケーションの力は、生きる力につながるのかなと思いました。とても為になりました。(10代 学生)

“性”の前に人間としてのつながりが問題 かみしめます。(50代 教育関係)

女子高生の感想で中絶に関する講演に違和感があったというものがありました。自分が伝えたい事、聞いて欲しい事を、聞く側が「どんなことなら聴きたいか」「どういう風に聴きたいか」に合わせていくのは難しい事だと思いました。(20代 学生)

性教育の根本にあるのは、生きる力になるのだと思いました。命の大切さについての答がなくても、考えることが大切なのだと思い、考えること、考えられる状況をつくっていきたくと思いました。(30代 教育関係)

お話を聞いて、感動したというか、癒されました。よい人生のためには、よい性教育が必要だとあらためて再確認しました。(20代 保健医療関係)

伝える事が難しい「性」の問題に関して、生活習慣病とからめて話されると、拒否感を持つ人にもわかりやすいし納得しやすいのかなと思いました。(40代 NGO)

中学校教員をしております。先生の切り口にもものすごく共感させられるものがありました。2学期以降の性教育の指導案作りと、他の教師へ説明する時の話の切り口が明確になり、解決しました。6年位前に一度参加させてもらったのですが、今回の先生のお話の内容が以前と変わっているような気がしました。その部分がとても勉強になりました。(30代 教育関係)

性教育だけにフォーカスされたお話かと思っていましたが、根底に人と人との関係性を重要視されていたので奥行きの深さを感じ納得できました。(40代 NPO)

連絡先：岩室紳也 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館15階
(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター
Tel:03-5212-9152 Fax:03-5211-0515 紳也 s HP:<http://iwamuro.jp/>



コミュニケーションの力は
生きる力につながるのかな

中学生記者取材！「思春期の性～いま、何を、どう伝えるか～」に参加して

- 実は知らないコミュニケーションの大切さ -

AIDSが感染していつの間にか知ってしまったのは、知識がある人がいても、コミュニケーションをしないで知識がみんなに伝わっていない。コミュニケーションの力がない事は生きる力がないことにもつながる。

なぜなら人と関わらないと人は生きていけないから。



親OYAカフェ 子どもと性のこと話せますか？

主催：おとなのしゃべり場



思春期の子供を持つ親たちが本音でしゃべれる場を作ろうと活動が始まりました。特に性の事を子供と話し合うのは、なんとなく出来ない私たちの年代・・・本当は家庭で話し合っていくのが自然のはずなのに、恥ずかしい内容ではないのにと思いつつ悶々としている大人たちの気持ちを声にしていく場です。

内容：大人をターゲットにし、本音で性をエイズを語っていく企画でしたが、50代40代20代10代と年代を超えて話し合う場となりました。初めは年代も様々で戸惑いも感じましたが、話し合っていくうちにお互いの年代の想いを話すことができ、とてもよい内容となりました。ここでは書ききれないほど厚い内容でした。感想を抜粋します。

来場者感想：

初めは何を話してよいのか判らなかった。自分と違う人もいたけど親と話すことは大切と思った。自分から話していこうと思う。相談できる友人・大人の人ができればいいと思う。(10代)

素のままに話せる場を広げたい。(20代)

中学生と性について話せてよかった。受け身であった自分の1歩が前へ進めるきっかけになった。「話し合う」「話を聞く」が大切。(40代)

連絡先：LA MAPPA 企画 URL：<http://lamappa.jp>

13歳～おばさんまで

中学生記者取材！

「親OYAカフェ 子どもと性のこと話せますか？」に参加して

- AIDS文化フォーラム親カフェ！ -

性教育の事でいろんな人と話し合った。・・・感想・・・保健所の人とかもいて性について、いろんな人と話す事が出来ました。今まで全く考えた事も無く、友達や親とも全然話すような事じゃなかったけど、4つのテーマ(話)を出して、それについて保健所や大学生の方と話をしたり、中学生の目線で話しをしていただいたりといろいろな立場の方と話が出来ました。私は何でも話せる友達を一人でも多くつくりたいと思いました。

- 考えなおしてみる -

子どもの性について、話し合った。～感想～いろんな人(大人からおじいちゃん、おばあちゃん)たちと性について話し合っただけアドバイスももらえました。いままで考えなかったことを考えることができたかもしれません。親とも話せるよい「きっかけ」でした。大人の人もいたことで親から見て思っていること、中学生が思っていることを分かり合えてよかったです。

- AIDS文化フォーラム -

今年は「親OYA！カフェ」という交流の場でした。13歳～おばさんまで幅広く年代の人と性について話し合いました。一度も会ったこともなく、顔もみたことのない人といろんな事を話しました。中学・大学生や子どものいる親で、女の人だけでした。体のこととか、他人のことなどたくさんを知り、学びました。今日学んだ事は、親、友達に話したり、学校でAIDSの事を見出しに新聞などをつくってみんなに知ってほしいと思いました。



つながる～いま、私にできること～

中学・高等学校で伝えるHIV/AIDS—出前授業の実際

主催：H.I.Voice Act(山村まゆみ+桜屋伝衛門+岡島龍彦)

リラックス、楽しむ、感じるを基本に、互いに思いを語ることから、エイズを自分自身の関わりで考えていく活動

内容：リラグゼーション-出身地別並び替えと自己紹介、「あ」一言の演技共感-HIVに影響を受けた人たちの声を読み・聞く つながる-学校での実践紹介ビデオを見て、意見交換



来場者感想：

中学・高校で教えるとき、まず、エイズ、セックスについて現実感を持たせるのが難しい。(実際はセックスしてる子もいるが、自分から言うまでには時間がかかる) 生の声をきかせることで、まずAIDSに注意を向ける、AIDSという言葉が脳に入るとい段階から行うことが、予防にも必要だよなと感じた。(京都府 20代 学生) 名古屋にもどって、実践しようと思いました。(愛知県 30代)

実際にどんな授業をしているのか体験+ビデオをみせていただいて、とても参考になりました。(山梨県 30代 保健医療関係)

リラックス 感じて 考える 話してみる 別の意見を聞いて再び考える 自分としては何ができる? とてもすばらしいプロセスを体験させていただきました。(新潟県 30代 保健医療関係)

朗読はあちこちでやっていますが、なぜ必要か、なんのために行くか、少しヒントがみえました。知識の提供だけではないけない、どう思い、どう考えるか、その上で、自分で、知識を増やしてもいいのだと思いました。(東京都 30代)

HIVをもっている方のメッセージが強く心に響きました。自分がもしHIVをもっている方と出会ったり感染した時の感情はどうなるか正確にはわからないけど今思っている事をそのまま感じられたらいいと思いました。(神奈川県 10代 中学生)

連絡先:H.I.Voice Act 岡島龍彦 Tel:070-6656-8860

E-mail:tatu-hiko*mpd.biglobe.ne.jp

世界がもし100人の村だったら～HIV/AIDSバージョン

主催：横浜YMCA ACT

YMCA ACTのボランティアメンバー・スタッフからなるワークショップチーム。「もし世界が100人の村だったら」のワークショップを題材に、HIV/AIDSのことを地域の人とともに考える機会を持ちたいという思いから活動を続けている。

来場者感想：

ひもやカードを使ってやったので、飽きずに最後まで集中することができました。参加者と自己紹介をする機会もあり、「こんな人も参加しているんだ」と知ることができて興味深かったです。今日学んだ知識を友人などにも伝えていきたいと思いました。エイズ検査にも必ず行きます。(20代 学生)

とても参考になりました。数字や資料だけではいまいち実感が持てないので自分が実際に体験して知ると言うことがとても大切だし、共感を得ることができるのかなと思いました。学校でもし発表する機会があればぜひ参考にさせて頂きたいと思います。(10代 学生)

単に講義を聞くだけではなく、カード等を用いる参加型手法が分かり易かったです。日本で生活する自分たちにどんな事ができるか分かりませんが、まずは検査を受ける等関心を持つ事から始めてみたいと思います。(30代 公務員)

会場でエイズ検査を当日やれるようにしてほしいです。(20代 学生)

役割カードや紙に従い自分が動く事で、HIV/AIDS世界動向がよく分かった。



数字や資料だけでは
実感が持てないこと
自分が疑似体験してみても
共感できた

連絡先：横浜YMCA ACT 〒221-0835横浜市神奈川区鶴屋町2-25-1

Tel:045-316-1881 Fax:045-314-6805 E-mail:madoka_saito*is.yokohama-ymca.or.jp

患者と医療者の視点から

現在のHIV、エイズ治療とは？ドクターに聞く！

主催：根岸昌功&洪久夫（ひさおの部屋サイトネットワーク）

内容：ねぎし内科クリニックの根岸昌功院長とその患者であるHIV感染者の洪久夫。今現在のHIV治療について患者からドクターに質問などを行いました。

来場者感想：

根岸先生の人柄が魅力的で、楽しかった。(東京都 30代 公務員)

根岸先生の間らしい診察の仕方に、素晴らしいと感じました。今後、HIVに関わっていく上で、カウンセリングマインドが必要で、自分の生活を楽しくしてもらう事が大事だと思った。(神奈川県 20代 NGO)

面白い、興味深い内容で満足でした。(東京都 40代 患者)

私は、横浜にある学校の高校生なのですが、今年の文化祭でエイズをとり上げるので、今日の話聞きに来ました。実際に、HIVの患者さん方やお医者さんのお話をうかがった事は、なかったので、すごく様々な事を学びました。(神奈川県 10代 学生)

連絡先：ひさおの部屋サイトネットワーク

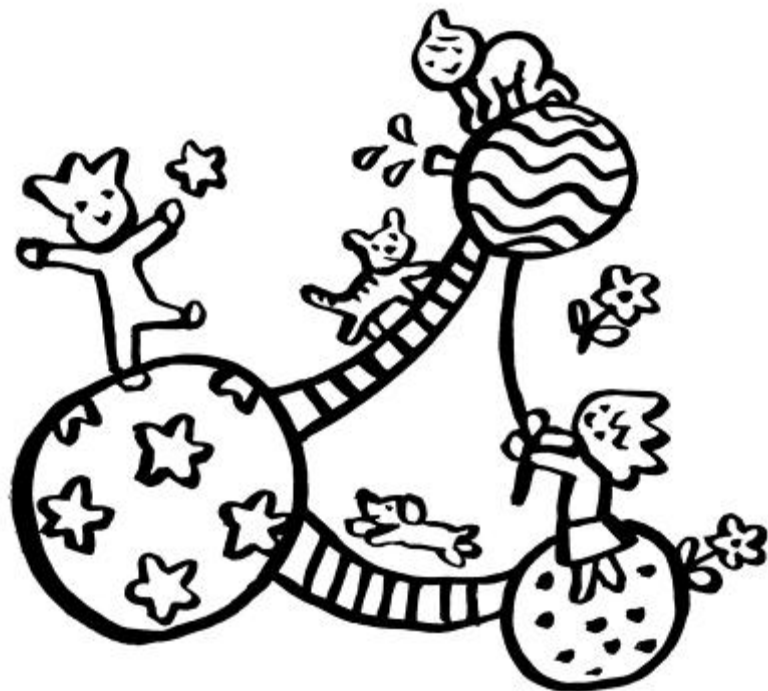
〒164-0012東京都中野区本町6-17-12フローラ新中野202

Tel/Fax: 03-3384-0489 E-mail: hon-hisao*w4.dion.ne.jp

URL: <http://www.k4.dion.ne.jp/~hisa1973/>



実際にHIVの患者さんや
医師の話聞いて
すごく様々な事を学んだ



文化の視点から

牧山神父を囲んでの分かち合い

主催：カリタスジャパンHIV/AIDSデスク



ラテン語で「神の愛」を表す「カリタス」組織は、その加盟国162カ国が援助活動を行っています。その一員のカリタスジャパンは国内外の援助活動を行い、2003年からHIV/AIDSデスクを設けて知識啓発を行っています。

内容：今年3回目となったシンポジウム「宗教とエイズを考える」、2006年はサーファー神父こと細井保路神父、2007年は東京の幸田和生司教、そして今年は司祭を育てる立場の牧山強美神父(福岡サン・スルピス大神学院院長)が仏教界の方々と対談しました。シンポジウム壇上では言えない本音や、会場では質問しにくいことを自由に話せる場がほしいとの声に応える形で今回の分かち合いが実現しました。「つながる いま、私にできること」というテーマに沿うような内容になり、それぞれがいる場で何ができるか、何をしたらいいか、全国的に展開するにはどんな方法があるかなどについて語り合いました。「何もできないから行かない」という姿勢ではなく、「何もできないけれどもそばにいる」ことの重要性も認識されました。

「HIV感染者が教会を訪ねたら受け皿ができていないか？」という問いかけに牧山神父は「受け皿はできているとは言えないが、たとえ理解してくれる人がいなくても、決して一人で悩まないでほしい」と答えていました。私たちの近くで苦しんでいる人への心遣い、HIV/AIDSについての教育、啓発がほんとうに緊急の課題であることがあらためて再確認されました。

連絡先：

カリタスジャパン HIV/AIDSデスク
〒135-8585東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館
Tel:03-5632-4439 Fax:03-5632-4464
E-mail:info*caritas.jp URL: http://www.caritas.jp

何もできないけれども

そばにいる

エイズ・人権教育への土壌づくり

- 「屋根の上のサワン」を読む -

主催：PHILIPさがみ・ロージナの会

内容：昨年の「100万回生きたねこ」に続く文学シリーズ。今回は日中戦争時代の小説「屋根の上のサワン」を取り上げました。小説の味わいを楽しみながらも、フォーラムで最も衝撃の走るゼミナールのひとつになったのではと思います。テキストは新潮文庫「山椒魚」所収。

AIDS文化フォーラムin横浜

連絡先：

PHILIPさがみ・ロージナの会
URL: http://www.philip.jp

ととり責重な経験も
させて頂きました。
自分に何が出来るか
真剣に考えていきたい
クッキー





DVD上映「ワトト・コンサート&ドキュメンタリー」 ～ウガンダのエイズ孤児～

主催：ワトト・ジャパン

内容：1992年にウガンダのカンパラ市街地で始まった「ワトト」はエイズや内戦で親を失った子ども達を助けています。そのワトト村の孤児で結成された「ワトト・チルドレンズ・クワイア」が今年5月に初来日しました。今回のAIDSフォーラムでは「ワトト」の始まりと活動の紹介&ロサンゼルスでのワトトのコンサートのライブ映像を見ていただきました。

来場者感想：

「2010年までに5千万人の子ども達が、エイズ孤児になるだろう」数年前に聞いた時は「ふーん、そうか。かわいそうだな」と思っていたが、もうあと1年半と思うとより現実的だと感じた。悲しいとか苦しいとかの尺度は人それぞれだけど、子ども達の素敵な笑顔に心を打たれた。外国の話じゃなくて、自分につなげたいと思う。(埼玉県 20代 保健医療関係)

今日初めてワトトについて知りました。そういった村があったなんて驚きだけど、とてもいい事だと思いました。子ども達の歌・顔・ダンスを見ていたら、まさか暗い過去を抱えていて両親が亡くなった経験をしているなんて思えなくて、私が抱えている悩みとかなんてちっぽけなものに思えて、勇気をもらえた気がしました。今日ここに来て良かったです！(神奈川県 10代 学生)

素敵な笑顔に
心を打たれた

連絡先：ワトト・ジャパン 〒106-0031東京都港区西麻布1-15-4-302

Tel/Fax:050-8013-3627 E-mail:japan*watoto.com URL:http://www.watoto.jp

国際ボランティア@タイ

主催：横浜YMCA かながわレッドリボンプラザ

横浜YMCAは神奈川県と協働し、エイズボランティア活動拠点を設置しています。

内容：タイのパヤオセンター(人身売買シェルター)とハッピーホーム(エイズ孤児ケア施設)で長期活動経験を持つメンバーによる現地活動報告でした。ボランティアに関心を持つ若者も参加していただき、経験・学びを伝える良い機会となりました。

来場者感想：

私はちょうどタイでの人身売買・児童買春の問題に興味があり参加しました。直接この問題に関わることは難しいと感じ、何が出来るかを考えていました。ここでの話を聞いていいヒントになったと思います。(20代 福祉関係) 情報として知っていたが普段自身の身の回りにない事実なので改めて考えさせられる興味深い内容でした。同じ人間なのに世界は広く、様々な現実があると再認識！！(40代)

実際に経験した方の話を聞き無知な自分に気づかされました。ボランティアに携わりたいと思い参加しましたが、人身売買、AIDSによって自分の存在価値を失い困っている人々の話を聞いて、さらにボランティアをしたい！タイの人々や貧困のために役に立ちたいと強く感じました。(10代 学生)

直接日本や世界のHIV/AIDSに関わっていく、興味を持つ、知ることがわたしたちにできることだと思います。タイでのお話がきけて本当に嬉しかったし、周りの人たちに伝えていきたいです。(10代)

連絡先：かながわレッドリボンプラザ

〒231-8458横浜市中区常盤町1-7

Tel:045-662-3721 Fax:045-651-0169



「生きる」から考えるHIV/AIDS

主催：国際協力研究会PEACE

国際協力に関心を持つ学生により設立されたサークル。
慶應義塾大学看護医療学部生より構成されている。

内容：今、世界中ではHIV/AIDSに対する予防教育が積極的に行われています。しかし、新規HIV感染者数が減少の兆しを見せないことから、現状の政策やキャンペーンは一時的な予防にしか過ぎないと考えました。



そこで提案したいのがLife Skillという考え方です。Life Skillとは対人能力やコミュニケーション能力、決断力であり、これらは人がどのように生きるかということに大きく影響してきます。この考え方は私たちがタイのAIDSホスピスでボランティア活動をする中で見つけたものであり、この考え方をういて「生きる」という視点からHIV/AIDSを考えることの重要性を感じました。私たちは表面的な施策ではなく、人の根本に働きかけることがHIV/AIDSが引き起こす様々な問題への効果的な対処であると考えます。

そこでLife Skillという考え方を参加者に伝え、ひとりひとりに自分が生きるということについて考えてもらいました。このように生きるということについて考えるという一歩が、差別や偏見で苦しむ人を理解し、HIV感染者やAIDS患者と共に歩いていける未来を創造することにつながっていくと私たちは考えています。



連絡先：〒135-0061東京都江東区
豊洲1-3-1-2903 杉木 隼
Tel:090-5807-8145
E-mail: angelos2006*hotmail.co.jp

Life Skill

中学生記者取材！「生きる」から考えるHIV/AIDSに参加して

AIDSが抱える問題について、今まで深く考えることはなかったけど、今回関連図とかをつくることでAIDSについて真剣に考えることができました。正しい知識を持ち、相手を理解するその気持ちが大切だと思いました。
参加して本当に良かったです。

アジアの人々はAIDSに対して正しい知識がないため、子どもたちが悲しい思いをし、また亡くなり、とてもまずいことになっています。それを支え、支援してあげていることは、とてもすごいことだなと思いました。AIDSは予防できるため、これからの子どものために予防し、AIDSに対する正しい知識を学ぶことが大切だと思いました。

私たちの間では様々な情報が流れ、性についても流れてきます。今まで軽く考えていたことも重く受け止められるようになりました。やはり性教育はあった方がいいと思いました。私みたいに重く受け止められるようになるから…





2007年9月7日(金) 横浜駅西口に
かながわレインボーセンター「SHIP」がオープン!

あなたはどうか伝えますか? **社会問題の視点から**

「同性愛・多様なセクシュアリティと教育」

主催：横浜Cruiseネットワーク

神奈川県内のMSM(Men who have sex with men)を対象とした予防啓発活動

内容：エイズ予防において重要な、セクシュアルマイノリティへの社会的理解の促進キャンペーン「Presence2008」の一部としてのVoice(セミナー)を行う。講師に砂川秀樹氏(エイズ予防財団流動研究員)、クリア・マリィ氏(津田塾大学学芸学部准教授)を招き、HIV予防活動におけるセクシュアルマイノリティ教育の重要性を語って頂き、学校教育で何が求められていて、どう伝えていくかを探るトークセッションを行った。

来場者感想：

大人の理解不足が生徒に伝わっていると日々感じています。教員集団はお話の中にあつた「いろいろだね」と終わる集団のように感じていてイライラと違和感を持っていました。時には休んでから、根気よくやってくという言葉で救われます。AIDS文化フォーラムなので一番感染の多いMSMをはじめ同性愛についてもたくさんのプログラムを用意するべきだと思います。(セクシュアリティ・ジェンダーという枠組みでもいいので)(保健医療関係者)

多様性について、まだまだ自分自身の中で考え勉強していくことが必要だと感じました。(保健医療関係者)

自分が簡単に考えていることに対し、反省しました。セクシュアリティの問題を理解するには非常に難しいと感じました。(保健医療関係者)

連絡先：〒221-0834神奈川県横浜市神奈川区台町14-2 ピレア台町2F

かながわレインボーセンターSHIP内 Tel/Fax:045-306-6769

URL: <http://ship.y-cru.com/> E-mail: ship*y-cru.com

薬害エイズを風化させないために

主催：薬害エイズを考える山の手の会

内容：薬害エイズ裁判の和解(1996年3月)から12年、年を経るごとに風化されつつある薬害エイズの中で、今年、厚生省官僚の不作為を問われた薬害エイズ刑事裁判の最高裁判決が出た。この刑事裁判の告訴人で薬害エイズで息子さんを亡くされた遺族のお母さんと薬害エイズ訴訟の弁護士、薬害エイズの取材をしてきた新聞記者と薬害エイズの生存原告で時系列的に当時の出来事を実生活の面から振り返り、薬害エイズを風化させないためにどうしたら良いか考えた。薬害エイズを考える山の手の会では、常に薬害エイズの当事者をまじえて実生活の面から、なぜ薬害エイズのような社会問題がおきてしまったのか、地域での勉強会を通して考えている。

来場者感想：

子供の頃の出来事で内容をほとんど知らなかった。本や資料を見て決して忘れてはいけないと思ったが、今回、家族や本人の話を聞いて良かった。是非このような機会を増やしてほしい。

HIV、エイズ、血友病とつながらなかつたという感想を持っている人が多いと実感している。このフォーラムで企画を続けていくことを願っている。何か違うと思った時に声を出さず責任を取ることが人の命を守ることになるという自覚、行動が必要だと思う。薬害から学んだことを生かすことだと思う。

あらためて時系列的に当事者とふりかえることが出来、意義深かった。

忘れることは無いが忙しい日々流されて日常的にアンテナが低くなっていた。今回を機に今の現状を知り自分でも出来ることを考えていきたいと思う。

原告や原告の遺族の話が聞いて大変有意義だった。

連絡先：薬害エイズを考える山の手の会 〒123-0865東京都足立区新田3-17-2-

105江川方 Tel/Fax: 03-6802-5680 E-mail: egawa.moritosi@lime.plala.or.jp

時には休んでから、

根気よくやってく

AIDS対策を考える保健師の会

主催：PNY〔ぴにい Peer Network Yamagata〕

PHA、NGO、学生・PTA・教育者、医療関係者・行政等、様々なメンバーが対等な立場で共にAIDS/STIの予防対策を考える会です。

内容：

AIDS対策を考える保健師の会では、これまで経験してきた保健師業務の中からAIDS対策を深めていくにはどのようなポイントがあるかなど、学校行政・地域住民などとの連携も踏まえPNYからお話させていただいた後に参加者の方々と一緒に意見を出し合い、今後のAIDS対策における保健師の役割について話し合いました。

来場者感想：

現状に対する細心な指摘があり、視点が新鮮と思う。

データで結果を出すことは自分の力になっていく。

用意周到。長年の蓄積が着実に実を結んでいる。子供だけでなく性教育を受けていない親世代へのアプローチという視点は重要だと思った。

継続は力なりというが情熱も力なりと思った。系統立てて物事を動かすためには、肩書き・知識・戦略、そして仲間が必要・・・道は遠いように感じた。

養護教諭や他職種との連絡会の参考にしたい。

他の方と意見交換出来てよかった。

PNYの活動はようやく10年目を迎えました。皆様の少しでもお力になれるよう継続した活動をしていきたいと思えます。

連絡先：わたらい代表 渡會睦子

〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17 東京医療保健大学内

E-mail: mutsuko*mub.biglobe.ne.jp



肩書き・知識・戦略、

そして仲間が必要・・・



PWA/H(HIVに感染している人々)の視点から

神様がくれたHIV~HIV感染がわかってから12年

主催:北山翔子

内容:HIVに感染した、感染している自分を語ることを通して聴衆のみなさんに何かを感じてもらえればと思って語りました。

来場者感想:

「変にケアする言葉はいらない」という言葉を聞いて、今後HIV(+)の人にかかわる時に気をつけようと思った。(20代 保健医療関係)

今回、北山さんのお話をうかがい、生きることのすばらしさ、生命の尊さを実感する事ができました。ありがとうございました。(50代 教育関係)

HIVに感染された方のお話を初めて聞いたのですが、HIVに対しての思いや考えがすごく変わりました。(10代 学生)

自分自身の家族の事を話すのはそう簡単にできることではないと思います。特に「感情をコントロールして人に伝えていく」ということはできませんが北山さんがそのことをこうして実践されている事に「力」を頂きました。(30代 保健医療関係)

今まで直接お話を聞ける機会がなかなか無かったので、ほんとうにより実感したというか身近な話なんだな、と思えることが出来ました。北山さんが女性として人として格好良いなと思いました。(10代 学生)

北山さんが、淡々と飾らない言葉で語って下さる自分史はとても心に深く残りました。私自身これまで生きてきた中で何度も親の存在のありがたみを感じてきたので、今回の話はとても共感しました。「助ける人より、助けられる人」って難しいですよ。でも、人との出会いや周りにいる人々を大切にしながら生きていきたいなと心から思いました。(30代 保健医療関係)

連絡先:

北山翔子講演マネージャー:岩室紳也 <http://iwamuro.jp> (HPから連絡ください)

HIVに対しての
思いや考えが
すごく変わりました



陽性者手記朗読会 - H.I. VoiceからLiving Togetherへ

主催:PHILIP+

内容:HIV陽性者手記リーディングを通して、AIDSの20年史を紐解く試みを行いました。

連絡先:

PHILIP+

URL:<http://www.philip.jp>

学生とHIV感染者 洪久夫によるライブトーク

主催：ひさおの部屋サイトネットワーク

内容：学生と感染者の洪久夫のトークライブで、参加型によって、いろんな話をしながら、エイズの事を語りました。

来場者感想：

みんなのいろんな話、特に洪さんをはじめとした感染者の方の思いが聞ける小さな輪としてすばらしい企画でした。(佐賀県 30代)

とても感動しました。自分がエイズに感染したらどうなるか。改めてエイズ感染者との間がちぢまったかなと思います。(神奈川県 10代 学生)

話せる輪があるところに、少しだけしつとをしました。私には、想像のつかない死への孤独。私にはまたそれについて意見を言えるほどの経験に欠けます。(東京都 20代 その他)



連絡先：ひさおの部屋サイトネットワーク

〒164-0012東京都中野区本町6-17-12フローラ新中野202

Tel/Fax: 03-3384-0489

E-mail: hon-hisao*w4.dion.ne.jp URL: <http://www.k4.dion.ne.jp/~hisa1973/>

料理長の話「感染者と食事会のメニュー」

主催：ぽーとたまがわ

感染者の方との定期的食事会、電話相談「AIDSこころのホットライン」火曜日(19時～23時)、食に関する勉強会「レクチャー&クッキング」

内容：今回は料理の話、と致しましたが、料理は味わうもので、聞いただけでは満足は出来ない、と考え、食事会で感染者の方々に特に人気のメニューを2品持参し、出席していただいた皆様に試食していただきました。味は手前味噌？ですが、とても好評でした！食事会を催したいきさつ、メニューを考える時に注意した点、食べるという根本的なこと、栄養・衛生・免疫、食べる環境作り、食事会の意義、などを少ない時間でしたが、皆さんと話し合いました。

当日の献立：「身欠きにしんとナスの炊きもの」「バラ肉と山芋の煮込み」

来場者感想(一部抜粋)：

美味しいは手作りと手間と愛情の組合せだと思える試食でした。(神奈川県 40代 保健医療関係)

こじんまりとして和やかで楽しい雰囲気の中、いろんな話が聞けました。(神奈川県 40代 その他)

名医の条件は患者の話をよく聞く事には納得させられました。(神奈川県 40代 その他)

食の大切さを教えなければと思いました。(東京都 60代以上 NGO/NPO)

改めて日々の食生活を大切にしようと思った。(40代)

食と云うものが文化や人とのつながりに深く結びついていると思った。(千葉県 20代 会社員)

話を聞き、食事が意味する物は奥が深く、心に作用する部分も多いと感じた。(神奈川県 20代 NGO)



和やかで楽しい
雰囲気の中、
いろんな話が聞けました

連絡先：ぽーとたまがわ

〒336-0026 さいたま市南区辻3-1-21-801

Tel/Fax: 048-861-0411 E-mail: amma*dg7.so-net.ne.jp

医療の視点から

神奈川県におけるHIV/AIDS診療の現状

主催：横浜市立大学附属病院（神奈川県エイズ治療中核拠点病院）
上田敦久 友田安政



内容：神奈川県エイズ診療中核拠点病院として17の拠点病院と共に神奈川県における診療体制、診療サービスの向上にとり組んでいます。

当日はHIV感染症に関する疫学、臨床像、治療、最近の感染症に伴う問題点について講演を行いました。神奈川県における疾患の流行や診療体制に関して、県内の病院を対象としたアンケート調査の結果や自験例、神奈川県エイズ拠点病院連絡協議会や神奈川県歯科診療ネット

ワークの活動内容、等を紹介させていただきました。最近の感染症に伴う問題点に関しては、特に感染症患者さんの高齢化とこれに伴う介護の問題について医師、ソーシャルワーカーの異なる立場から現状と課題点を提示させていただきました。

来場者感想：

神奈川県HIV医療の現状を詳細に伺えてとても興味深かったです。

感染者、患者の高齢化という新しい問題に気付かされた。

ソーシャルワーカーさん患者さんに対する思いにはとても共感しました。

その他、多数の感想を頂きました。

連絡先：横浜市立大学附属病院 〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9

Tel: 045-787-2800 Fax: 045-786-3444

URL: <http://www.fukuhp.yokohama-cu.ac.jp/hiv/index.html>

HIV感染症の最新事情

主催：横浜市立市民病院 感染症内科 立川夏夫

内容：HIV感染症は免疫に関わる疾患である。ヒトの免疫は、構造、細胞成分、抗体、補体、基礎的代謝、等がある。細胞成分では好中球、単球、リンパ球がある。HIV感染症ではリンパ球の一部であるCD4陽性Tリンパ球が問題となる。しかし、CD4陽性Tリンパ球の破壊・機能不全が起きた場合でも、他の免疫システムは健在である。HIV感染症になれば全ての免疫が破壊されるわけではない、ということが非常に重要である。そのため感染していても自覚症状に乏しい。

HIV感染症は性的接触で伝播する。日本においては、HIV陽性者の約90%が男性であり、その約90%(全体では約80%)が男性間性的接触により伝播している。このリスク群を中心として、日本でのHIV陽性者数は増加が続いている。男性間性的接触の行為に参加する前には、そのリスクを評価する必要がある。

現在は非常に優れた抗HIV薬が複数存在し、HIV感染症はもはや「死にいたる病気」ではない。天寿をまっとうすることが可能な慢性疾患である。

しかし、その治療法の発達した現在においても、HIVスクリーニング抗体検査が遅れて、AIDSを発症する人々がいる。AIDSを発症すると、今でも致死病的病気である。HIV感染症は自覚症状がないため、積極的なスクリーニング検査でしか、見つけ出すことができない。社会全体でHIV陽性者を支え、スクリーニング検査に対する心理的障害を取り除くことが非常に重要である。

連絡先：立川夏夫(たちかわ なつお) 横浜市立市民病院 感染症内科

〒240-8555横浜市保土ヶ谷区岡沢町56 Tel: 045-331-1961

感染者、患者の高齢化という

新しい問題



つながる～いま、私にできること～

妊婦のHIV検査と母子感染対策の最新事情

主催：神奈川県

講師：帝京大学 喜多恒和、国立国際医療センター 大金美和、
(財)エイズ予防財団 矢永由里子、神奈川県健康増進課

内容：今後、妊婦でHIV陽性者の増加が予測されるが、近年の治療法の進歩により母子感染予防が可能になった。そのためにHIV検査による感染の早期発見が重要だが、スクリーニング検査の特徴と偽陽性の意味と対応、HIV陽性時の医療とケアについて、医療を提供する側も受ける側も正しく理解しておくことが必要。妊婦HIV検査時に役立つフリーレットとマニュアルの紹介、HIV陽性者の妊娠・出産時の医療とケアについて、最新情報を話した。

妊娠：産科病院に紹介されて…(妊婦)
HIV確認検査までやり(陽性)と
言われ、産科病院に紹介された
HIV確認検査(陽性)で、
医師がえらく怒ってしまい、
その様子を目の当たりにし本人は
HIVのことを質問できず、
「自分はそんなに大変な状況に
なってしまったのだ」と感じた。



来場者感想：

知らないことが恐怖を生むこともあるので、医療者、患者共に正しい知識を身につける必要性を感じた。(10代 学生)

医療体制が整ってHIV陽性者でも当然のように出産できるとよい。(20代 NPO)
妊婦検査に関する問題が明らかになり、どのようにして検査時の混乱を減らすか考える機会になった。(20代)

妊娠前にも検査に行く意識の向上をしていく必要がある。(30代 教育関係)

ディスカッションで、質問に対してパネラーと参加者が次々にバトンを繋いでいく形で、他の講座よりも「つながる」感じがした。(30代 保健医療関係)

医療従事者が正しい知識を持って対応することが大切。(50代 保健医療関係)

医療者、患者共に
正しい知識を身につける
必要性

連絡先：神奈川県保健福祉部健康増進課エイズ・感染症対策班

Tel:045-210-4791

(財)エイズ予防財団資料情報 <http://api-net.jfap.or.jp/htmls/frameset-05.html>

HIV/AIDSの歯科治療の実際

主催：カスヤ歯科クリニック 糟谷潤

内容：残念ながらまだまだ、私の“つたえ手”としての未熟さから、来場者の皆様に期待値以上のものを伝えられたかが疑問符です。

HIV/AIDSの患者さんが増加傾向にある今、歯科を受診されるHIV/AIDSの患者さんも増えています。それと同様に受け入れる=受診可能な歯科医院が増えているのでしょうか？ 残念ながら追い付いていません。受診可能な歯科医院が増えていない理由、ほとんどの歯科医の先生方が風評被害を気にしているのではないのでしょうか？ 私もその1人でした。

そんな事を経験した1人の歯科医として、まだ経験していなくて悩んでいる歯科医の皆さん、世の中の皆さんにメッセージを発信しました。治療の実際、待合室での出来事、治療室で、針刺し事故等。1人の人間として感じた事、行動した事をお話しさせて頂きました。

連絡先：カスヤ歯科クリニック

〒105-0014東京都港区芝2-29-9 榊原ビル2階

E-mail: makesmile*docomo.ne.jp



米国西マサチューセッツ地域のAIDS事情

～地域・州・連邦の政策課題～

主催：エイズを伝えるネットワーク(TENCAI)

HIV/AIDSを軸に、性にまつわる様々な健康リスクに気づける各種プログラムを提供し、多様な価値観がコミュニケーションでつながっていける社会づくりを目指して活動しています。

内容：昨年米国東部にあるマサチューセッツ州のHIV/NGOの活動を知る機会があり、その活動を、特に日本ではあまり知られていないドラッグ・ユーザーとホームレスに対するアウトリーチプログラムを中心に報告しました。またそのような厳しい現状の中で州政府がどのように感染者のニーズを拾い、感染拡大を防ごうとしているかも併せて紹介しましたが、ドラッグを通じた感染拡大のショッキングな実情に驚き、政府施策の無力を感じた参加者が多かったようです。

来場者感想：

州特有の要因、背景、人材をわかりやすく紹介されていた。ネットワーク力の定義や把握は、今後詳細に分析したり、日本の事例との比較で重要になると思う。

米国の問題と実践は理解できましたが、日本より根が深く、解決にはかなりのエネルギーがいると思いました。

地域でこの様に差があるのってすごい差だと思った。政府の支援がうすい状況に、今後AIDSのまん延や広がりが強くなるのではないかと思った。

性教育がされていないアメリカは信じられないと思った。イメージではアメリカは若年での性行為がさかん、とあったので、性教育はやはりきちんとされなくてはならないと思う。日本も同じだと思った。

男性の心の傷つきと向き合う

～米国西マサチューセッツの先進事例紹介～

主催：エイズを伝えるネットワーク(TENCAI)

内容：米国西マサチューセッツ地域で行われている男性支援NPOの活動を、社会資源の再配分という視点から分析して紹介するとともに、実際に団体に使われている暴力加害男性の行動変容プログラムのメソッドの概略を体験するミニ・ワークショップを行いました。「何とかしなければ」と真剣に行動に向き合わせることで、また、たとえ加害者であっても支援する側には「ケア」の視点が不可欠であるということなど、DV加害者の行動変容プログラムには、HIV予防啓発における行動変容プログラムにも役立てられる要素が多くあります。今後はジェンダー不平等と暴力とAIDSの関連性をもう少し丁寧に見せられるよう工夫したいと思います。

来場者感想：

性格差、世代間格差、地域間格差に濃淡はあるのだろうが、意外に運動世代と若者世代のミスマッチが大きい気がした。

DVを通して男性の問題や社会の問題点を、アメリカの体制との比較で日本の現状を考えることができた。とてもわかりやすかった。

DVの裏には、男性の心の傷つきがあるということ。女性も傷ついているけど、これからの支援を考えていかななくてはならないと思う。

内省を進めれば、結局のところ何らかのトラウマや心の傷を見つけてしまうものなのではないでしょうか？

連絡先：エイズを伝えるネットワーク(TENCAI)

〒101-0021千代田区外神田2-1-11 松住ビル2F B室 わかばてい2内

E-mail:mail*tencai.org



多様な価値観がコミュニケーションでつながっていける社会づくりを目指して



人身売買とHIV/AIDS

主催：ユニセフ支援市民団体ふれきしぶる

世界中の子供達が今より少しでも幸せになりますように、ふれきしぶるは1997年に創立された横浜市で活動するユニセフ支援活動をしているグループです。講演会・写真展・募金・勉強会・各種イベントへの参加を通じてユニセフを支援しています。

内容：元日本ユニセフ協会広報室長の森田氏を講師に迎え、人身売買に関するセミナーを開催しました。被害者に対する精神的なケアを表現アートセラピーという手法を用いて行った事例をご紹介頂きました。実際の被害者が書いた絵を紹介しながら、目に見えない感情や心の傷が時とともに変化していく様子を見せて頂きました。



そして最後にふれきしぶるが2007年2月に訪問したラオスで出会った人身売買被害者を紹介。人身売買の背景や問題点等を報告すると共に、日本に住む私たちにできることは何かを問題提起させて頂きました。

人身売買の問題は決して身近なものではありませんが、参加者のアンケートからは、事実を知ることによる意識の変化が伺えました。

連絡先：ユニセフ支援市民団体ふれきしぶる 事務局長 吉田誠
Tel:080-5028-4443 E-mail:fureki_ml*yahoo.co.jp

日本における人身売買 ～ホットラインの向こう側

主催：てのひら～人身売買に立ち向かう会

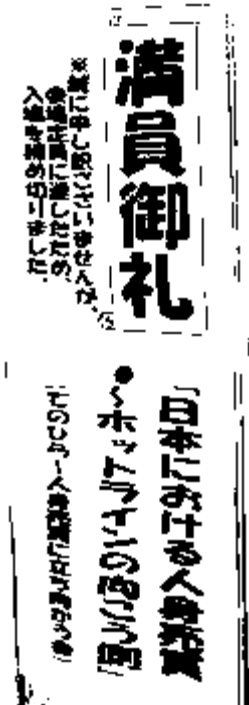
『人身売買を放置しない社会を目指す』を理念に、「人身売買や人権を考えるためのきっかけ提供」を行う社会啓発と、「被害の当事者に寄り添った支援」を目指す当事者支援が主な活動です。

内容：ポラリスプロジェクト日本事務所コーディネータの方を迎え「日本における人身売買」について、ホットラインの現状を盛り込んだトークセッションを前半に行いました。「遠い世界の話のように感じていたが、身近な事だと知ることができた」「現場の声を聴く事で認識できた」「想像したことがないことについて考えることがとてもいい勉強になった」という感想を頂きました。今回の講座によって人身売買問題を考える一つのきっかけ、切り口なれば幸いです。

後半のワークショップでは「50年後の未来」というテーマで未来予想図を描いてもらい、「それを実現するために今からなにが出来る？何が必要？」ということを考えてもらいました。「皆さんの話を聞いて、一緒に人身売買のない未来について考えるのがとても面白かった」という感想を頂きました。今後も参加者の方々が少しでも笑顔になり、取り組む私たちも希望をもって人身売買と向き合えるようなワークショップやイベントを開催していきたいと思えます。

連絡先：てのひら～人身売買に立ち向かう会 事務局
〒226-8799神奈川県横浜市緑区中山町149-4 緑郵便局留
Tel: 050-1445-6947 Fax: 020-4624-7480
E-mail: tenohira_ycatip@hotmail.co.jp
URL: http://www.geocities.jp/tenohira_trafficking/index.html

遠い世界の話のように
感じていたが、
身近な事だと
知ることができた





今後HIV/AIDSの
演劇による啓発活動が
定着していくことが
期待される

演劇による中高年層啓発への挑戦

～いきなりエイズ発症の多い、長野県佐久地域での取り組み
主催：神奈川県

講師：佐久総合病院 高山義浩、加藤琢真

長野県東信地区佐久市に位置する約800床を有する地域の基幹病院。エイズ拠点病院として、エイズ病床を5床を持ち、現在約50名のHIV感染者が通院している。

内容：長野県佐久地域では、中高年のいきなりエイズ症例が多く、従来の都会型の啓発活動が土地柄に合わず、HIV迅速検査での陽性者は97年以降皆無であった。そうした現状を見て、今回、当院初期研修医32名が地域への健康啓発の場として伝統的に開催されてきた病院祭を舞台にHIV/AIDSの演劇を行った。今回は、演劇を行うに至った経緯とそのDVDを放映し、その後の効果や反応を発表した。

今回の演劇を発案、脚本を作成した加藤は、これまでエイズ孤児支援NGO・PLASを設立し、ウガンダやケニアにてHIV/AIDS予防啓発として演劇を使用してきた。また、佐久病院は終戦を迎えた実に5か月後より演劇を用いた健康啓発を行っており、今も劇団部として実際に活動を継続している。同時期より地域への健康啓発の場として病院祭というものを毎年開催しており、今年も2万人を集客したが、その主な客層は中高年であることが、今回の演劇の舞台として選んだ理由である。アンケート結果は概ね好評であり、他地域でも同様に行いたいという申し出があり、今後HIV/AIDSの演劇による啓発活動が定着していくことが期待される。

連絡先：神奈川県保健福祉部健康増進課エイズ・感染症対策班

Tel:045-210-4791

佐久総合病院 〒384-0301長野県佐久市臼田197 佐久総合病院

Tel:0267-82-3131 URL:http://www.valley.ne.jp/~sakuchp/

中学生記者取材！「演劇による中高年層啓発への挑戦」に参加して

エイズだからって差別されるのはかわいそうだなと思いました。劇とかもやっ
ていてすごいなと思います。実際劇をみてみたら、細かく作られていました。
また、エイズのこともよくわかりました。ちりょうを受ければ死なないとい
うことがわかりました。すごい勉強になりました。



人権・その他の視点から

職場におけるHIV/AIDS

主催：NGO - 労働組合国際協働フォーラム HIV/エイズ等感染症グループ
NGOと労働組合が連携を組織化して国際協力活動を行う事を目的とするフォーラム。

内容：我々のグループ紹介とHIV/AIDSに関する基礎知識のプレゼンテーションに続いて、4グループに分かれて陽性者の手記の読み合わせを行った。

続いて、模擬労使交渉を実施した。「ある製造現場勤務の組合員がHIVに感染していることを会社に告げると管理業務に配置転換された。本人は元現場に戻して欲しいと組合に訴えてきた」「ある組合員がHIVに感染しているということがわかり上司に説明したところ職場の仲間にも知られ、差別を受けるようになった」という前提条件で、会社の労働組合役員となった場合、どのようなことを会社に要求するかを4グループに分かれて討議し要求案を作成した上で、それを基に会社側と組合側に分かれ、労使交渉を体験するというプログラム。

参加者からは、「労組の視点からAIDSの取組みを考えることができ新鮮に感じた」「グループ討議では様々な職業の方の意見を聞くことができ勉強になった」「参加型ワークショップであったため貴重な体験ができた」などの好意的な意見が寄せられた。労働組合役職員、保健医療関係者、教育関係者、学生等、合計30名の様々な職業の方に参加いただいた。

連絡先：日本化学エネルギー鉱山労働組合協議会 (ICEM-JAF) 鈴木明子
〒108-0073 東京都港区三田2-7-13 TDS三田2F
Tel: 03-3454-8521 Fax: 03-3454-8516
E-mail: suzuki-jaf*mountain.ocn.ne.jp

一服のお茶から

主催：神奈川県立舞岡高校茶道部

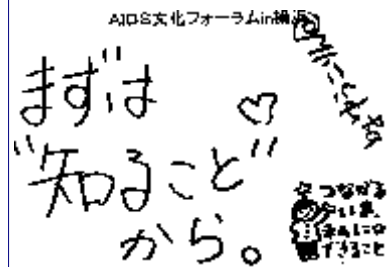
呈茶 入場者 126名

8月1日(金)、2日(土)の2日間、展示会場にて、抹茶とお菓子を提供させていただきました。多くの方々に入場していただき、大変感謝しております。「上手にお茶を点てられていますね」「おいしいお茶とお菓子で一息つきました」「ごちそうさまでした」など、温かい言葉をたくさんかけていただきました。生徒たちも、日ごろの練習の成果を発揮し、それぞれの自信につながったと言っております。また、呈茶の間を利用して、AIDSやHIV、性感染症などについてのさまざまなプログラムに参加しました。生徒一人ひとりが考えるよい機会になったと思います。

なお、利益は『(財)日本ユニセフ協会・ユニセフ募金』へ全額寄付させていただきます。

関係の皆様のご尽力とご配慮に深く感謝いたしております。

連絡先：神奈川県立舞岡高等学校 茶道部 顧問 飯島典子
〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡3-36-1
Tel: 045-823-8761



一服 100円



展示ブース(1階展示会場)



エイズの問題は
世界の成り立ちの
ありとあらゆる
問題の縮図でもある

AIDSカスタネット倶楽部

当会は1980年代初頭から各種の人権、差別問題に関心を持って出版、映画上映など様々な取り組みを続ける「伝書鳩の舎(いえ)」により、エイズ問題独自の会の必要性を持って立ち上げられた。現在も患者への具体的な直接支援(在宅援助、遠隔地への食料支援など)を細々と続けているとともに各種情報交換、交流も続けている。

内容:今回で連続4回目の参加である。毎回たくさんの書物と当会のメイン活動である「エイズ在宅援助基金」作りの為のエイズメッセージカードの紹介や各種提供品、バザー品などの物販を行う。印象的だったのは、「名古屋からわざわざご苦労様」との声をいただいた事や、「ザ・ゲイ」や「にじ」といったゲイ雑誌に目を留め話しかけてくる方や、臓器売買、性的搾取の問題に関心の向きからは「特集・絶対悪としての売買春」などへの注目が相次いだ。エイズの問題は世界の成り立ちのありとあらゆる問題の縮図でもある事を改めて実感させられる3日間だった。

連絡先:AIDSカスタネット倶楽部

郵便 466BOX94 Fax:052-835-6444

E-mail:awamori-masahiro*c.vodafone.ne.jp

ATAC in NARA

テーマ:エイズ結核と感染症の謎(田村猛夏・畠山雅行)

エイズ・結核・その他感染症の予防と早期発見と治療のためには、病気についてみんなで楽しく学習することです。展示とアンケートによる第3者評価。

内容:1)ATAC(ANTI TUBERCULOSIS ASSOCIATION CONFERENCE)は、結核やエイズやその他感染症をこれ以上広めないために各分野の専門家が集い教育・研究・研修を行うものです。

2)目的に賛同する人は誰でも参加できます。

3)事例のカンファレンスを行う。

4)啓発活動を行う。

5)アンケートを取り評価を行う。

アンケートの結果:総計212名回収。結核アンケートと :全問正解は は19名(正解率8.9%)と は74名(正解率35.2%)。エイズアンケート回収:全問正解は77名。(正解率36.3%)

アンケートの評価:エイズアンケートの正解率は高く、回答者のエイズに関する理解度は高い事が推察されます。一方、比較すると結核アンケートでは正解率は低く、回答者の結核に関する理解度は低い事が推察されます。年代・性差などによる正解率の差もみられました。

まとめ:今後はエイズのみならず、その他の性行為感染症や結核などの感染症についても参加者に正しい知識を伝える必要性があると、アンケートの分析と評価から考えられました。参加者や社会の関心を高めるためにAIDS文化フォーラムにまた来年も参加いたします。

連絡先:代表 畠山雅行 Fax:0743-78-9841

E-mail:m-hatake*m4.kcn.ne.jp



横浜YWCA

世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、人権や健康や環境が守られる平和な世界を目指しています。

内容:

セイファーSEXグッズ:STD予防に、女性が膣に装着するためのコンドーム「フェドーム」やオーラルセックス用のコンドーム「フィールトリップ」を展示、販売。実物を見るのは初めてという方が多く、インパクトが強かったようで、珍しそうに手にとって見ていただきました。

レッドリボン:価格の半分か南アフリカの製作者グループに送られる、レッドリボン・バッジの販売。

「もし誰にもうちあけれなかったら」小冊子:日本人の活動でこんな冊子があったらいいな、という感想がありました。「この本はHIV&AIDSの問題に対処するために勇気ある一歩を踏み出し、献身してきた若い女性たちの重要な歴史です。若い女性たちが

どのように、HIV&AIDSによる苦しみを和らげているのかを明らかにするために世界YWCAはこのような女性たちの素晴らしいストーリーを記録しています。これは単にストーリーを伝えるだけでなく、エンパワメントのツールなのです。私たちは、勇気ある若い女性たちの活動から得られた教訓を、あらゆる世代の人々に活かしてほしいのです。私たちの目標はひとつです。苦しみを軽減しHIV/AIDSとともに生きる人々のスティグマ(恥辱感と罪意識)を拭い去ることです。この人は私たちが実際に行動をおこす原動力となるでしょう。」(「はじめに」より)



連絡先:横浜YWCA 〒231-0023横浜市中区山下町225

Tel:045-681-2903 E-mail:office-yokohama*ywca.or.jp

URL:http://www16.ocn.ne.jp/~ywca/

ワトト・ジャパン

テーマ:ウガンダのエイズ孤児を助ける「ワトト」の紹介

1992年に東アフリカのウガンダの首都、カンパラ市街地に位置するKPC教会によって始まった「ワトト(ワトト・チャイルド・ケアミニストリーズ)」はエイズや内戦で親を失ったウガンダの子ども達や夫を失った女性達をサポートしています。精神的・肉体的に成長するだけでなく、全人格的なケア・プログラムによって命、希望、目的、尊厳や人生の意味を再び見いだすことが出来るようになりました。

内容:ワトト村の子ども達の紹介や今年5月に「ワトト・チルドレンズ・クワイア」が初来日した時の様子(コンサートやリハーサルの様子・学校訪問の様子など)を展示し、コンサートの様子を少しでも感じていただくために「ワトト・チルドレンズ・クワイア」のDVDも展示ブース内で上映しました。

展示会場ではタイなどでエイズ孤児をサポートしている団体もいくつか出展しており、エイズ孤児の問題はアフリカだけではなく世界的な問題であることを実感しました。多くの団体が様々な活動をしている事を知り、励まされました。

連絡先:ワトト・ジャパン

〒106-0031東京都港区西麻布1-15-4-302

Tel/Fax:050-8013-3627

E-mail:japan*watoto.com URL:http://www.watoto.jp



命、希望、目的、尊厳

特定非営利活動法人 NGOアフリカ友の会

テーマ：中央アフリカでエイズ患者、生活弱者を支援



「NGOアフリカ友の会」は中央アフリカ共和国でHIV感染者/エイズ患者・栄養失調者・生活弱者などの支援、HIVの感染拡大防止などを目的に設立されたNGOです。1993年首都バンギにブエラブ保険センターを設立し、その後2か所の栄養失調児センターを立ち上げ活動を続けています。

内容：

現地での活動を撮影した写真の展示
患者が生活自立のために作った布製品の展示販売
代表徳永瑞子の著書の展示販売

連絡先：

NGOアフリカ友の会事務局
〒115-0045東京都北区赤羽2-1-12
Tel: 03-3909-7114 Fax: 03-3900-4698
E-mail: africa9301@circus.ocn.ne.jp
URL: <http://www4.ocn.ne.jp/~africa93/>

Japan Alive (ジャパンアライヴ)

テーマ：「若者と生/性」「いのち」を取り巻く諸々のことを一緒に考える

「予期せぬ妊娠」に
直面している人々に

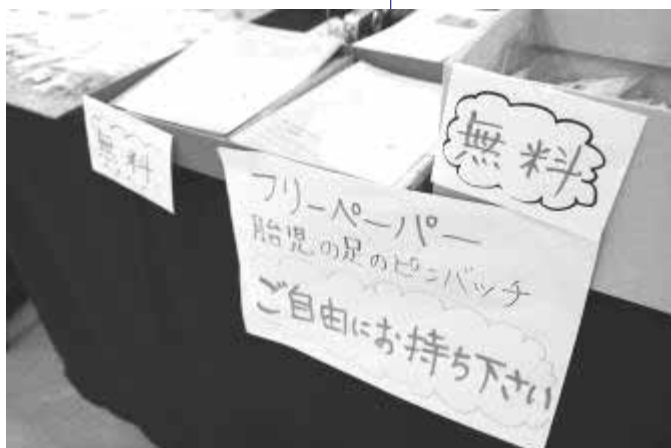
イベントなどでチラシや足ピン等を配布し、命の大切さを訴える
フリーペーパーやインターネット、メディアでの情報発信と相談窓口
若者への性教育に関するパンフレットやカリキュラムの提供
ワークショップ、座談会等の開催
「予期せぬ妊娠」に直面している人々に、どのような選択肢があるのかを情報提供・相談し、共に可能性を模索
妊婦の一時シェルターや養子縁組など、選択の余地を広げ、サポート
中絶の記憶に苦しむ人々の相談窓口 などをしています。

内容：お腹の中の赤ちゃんの足型(受胎後10週目の胎児の足)のピンバッチ(通称：足ピン)、フリーペーパー vol.2、パンフレット等の配布と、足ピンをモチーフにした携帯ストラップやネックレス、ミサンガ等のジュエリーの販売をしました。

足ピンは、岩室先生がコンドームネクタイにつけて下さっていることもあって、ご存知の方が結構いらっしゃいました。多くの方が知り合いにも配りたいと多めに持ち帰っていただきました。ご協力ありがとうございました！

連絡先：

NPO Japan Alive (ジャパンアライヴ)本部事務局
〒327-0003栃木県佐野市大橋町1617
(関東の他に、東北事務局、関西事務局、沖縄事務局等 あり)
E-mail: info@japanalive.org
URL: <http://www.japanalive.org>



PHILIP湘南



連絡先:

PHILIP湘南

URL : <http://www.philip.jp>

アジアの女性と子どもネットワーク

同じアジアに住む人間として、女性として、親として、子どもとして、手と手を取り合って、彼らと、そして自分自身のために活動していきたいという観点から、アジアの女性と子どもの権利を守るための活動を行っています。AWCIは、1996年5月就学の機会を求める子どもたちとの出会いから活動をスタートさせました。おもな活動は、学校建設、子どもの商業的性的搾取に反対する活動、AIDS孤児支援、女性たちの為の高等教育支援、給食支援などです。

内容:AWCでは、タイに住むAIDS孤児の子どもたちの健やかな成長を願い、教育・医療費の里親基金プロジェクトを行っています。昨年11月、タイ支援先の子どもたちから絵がたくさん送られてきました。子どもたちは、将来の夢や自分たちの両親のことなど様々なタイトルの絵の中に、AIDSで亡くした親への思いや現在の自分の立場などを描いています。子どもたちの絵や写真を通してAIDSのこと、タイのことを一緒に考え、HIV/AIDSについて理解を深めていただけたと思います。

連絡先:

アジアの女性と子どもネットワーク

〒230-0015横浜市中央区尾上町3-39

尾上町ビル9F YAAIC内

Tel/Fax : 045-650-5430

(月/水/木/金 13時～17時)

E-mail: awc*h6.dion.ne.jp

URL: <http://www.awcnetwork.org/>



手と手を取り合って、
彼らと、そして自分自身の
ために



株式会社ケーシーズ

テーマ: 10代のための「HIV/エイズってなに?」

内容: 10代のためのエイズ啓発コンテンツ「HIV/エイズってなに?」の紹介を行いました。

毎年思うのですが、ボランティアで参加しているスタッフのがんばりには感心致します。真摯にイベントに取り組んでいて、好感が持てました。また、同じように展示を行っている他のブースの人たちとの情報交換もとても有意義だったと思います。世界を視野に活動している人達の行動力には勇気づけられるモノがあります。活動している地域、手法はそれぞれですが、もしここにいる人達が協力し合い、よい連携で活動すればもっと効果的に事業を展開できるのではないだろうかと思いました。このイベントがそのような連携のきっかけづくりになれば面白いですね。

来年もぜひ参加したいと思っております。スタッフの皆様、お疲れ様でした。

連絡先: 株式会社ケーシーズ 佐藤真康

〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 勝毎ビル3F

Tel: 0155-25-8739 E-mail: masayasu*tokachi.co.jp

かながわレインボーセンターSHIP

(横浜Cruiseネットワーク)

テーマ: 世界のLGBT ~わたしたちはここにいる~

神奈川県内のMSM(Men who have sex with men)を対象とした予防啓発活動

内容: エイズ予防において重要な、セクシュアルマイノリティへの社会的理解の促進キャンペーン「Presence2008」の一部としてFace(写真展)を行う。日本国内(東京・関西・神戸・札幌)と世界各地(サンフランシスコ・ニューヨーク・台湾・ブリュセル・シドニー・トロント)で行われているセクシュアルマイノリティ(総称してLGBTと呼ぶ)のパレードの写真パネルと、コミュニティーセンター(国内: 横浜・東京・大阪・名古屋・福岡、国外: サンフランシスコ・ニューヨーク・韓国)の紹介パネルを展示。また国内外のLGBTに関連する出来事の年表も同時に展示。説明員による説明と、情報冊子やLGBTが置かれている状況を伝えるLetter(手紙)を配布した。今後、このような展示会を神奈川県内の公共施設をはじめとする人の目に多く触れる場所で行う予定。展示場所情報や展示物の貸し出しに関しては是非連絡をください。

連絡先: 〒221-0834 神奈川県横浜市神奈川区台町14-2 ピレア台町2F

かながわレインボーセンターSHIP内 Tel/Fax: 045-306-6769

URL: <http://ship.y-cru.com/> E-mail: ship*y-cru.com

性を語る会

「性を語る会」は、1987年、性教育やエイズ学習を实践する北沢杏子を代表として発足。東京・世田谷区用賀のアーニホールを拠点に、シンポジウム、講演会、子ども教室などを開催しています。また、機関誌「あなたとわたしと性」を季刊発行(現行88号)し、性、エイズ、障害者問題などに関する新しい情報を会員に提供しています。

内容: 上記シンポジウムや講演会などで得られた情報は、アーニ出版からユニークな学校教材に生まれ変わります。楽しく性やエイズの学習ができる授業参加型の教材は、日本だけでなく海外でも人気です。ジャイカなどを通してアジア・アフリカ・中南米・中東の国々から関係者が毎年数回研修に訪れます。

写真パネルでその研修の一端を紹介するとともにエイズ学習用教材を展示しました。テーブルでは、紙しばい、ビデオ、DVD、絵本なども並べ、エイズフォーラム記念特価で販売しました。毎回参加しているので知り合いも増え、性教育やHIV/AIDSについて情報交流のできる場として、展示ブースはとても有効だと思っています。

連絡先: アーニ出版/長谷川瑞吉

〒158-0097 東京都世田谷区用賀3-5-6 アーニ出版

Tel: 03-3708-4753 Fax: 03-3708-7324 URL: <http://www.ahni.co.jp/kitazawa/>

情報交流のできる場として

展示ブースはとても有効



横浜YMCA かながわレッドリボンプラザ

テーマ: *HAPPY HOME@Thai*

横浜YMCAは1995年から神奈川県と協働し、横浜中央YMCA・NPOサポートセンター内にエイズボランティア活動拠点としてプラザを設置しています。青少年から一般社会人まで幅広い方を対象にボランティア育成講座を開催するほか、ニュースレターを年に4回発行しています。

内容: タイ・YMCAハッピーホームの紹介

バンコク近郊ナコンパトム県にあるエイズ孤児ケア施設YMCAハッピーホームでボランティア活動に携わった福田倫子(横浜市立大学学生)さんの協力を得て、ハッピーホーム概要・写真から、福田さんに教わって子どもたちが作った工作(七夕飾り等)を中心に展示しました。

「おじいちゃん、おばあちゃん、全ての愛する人が長生きして、病気にならないように」「ハッピーホームの職員や役員になりたい」といった短冊に書かれた願いから子どもたちの家族やハッピーホームに対する想いを読み取ることができました。また、真っ青なタイの空の下ではじけるように笑う子どもたちの写真だけではわからない日頃の様子やタイでエイズ孤児が置かれている状況等についても立ち寄られた方にじっくりと伝えたり、他団体との交流・ネットワークができたりと、充実した3日間となりました。

連絡先: かながわレッドリボンプラザ

〒231-8458横浜市中区常盤町1-7

Tel:045-662-3721 Fax:045-651-0169



全ての愛する人が
長生きして、
病気にならないように

カリタスジャパンHIV/AIDSデスク

テーマ: *カトリックのHIV/AIDSの取り組み紹介*

2003年から活動しているHIV/AIDSデスクは、メッセージを発表したり、講演録やエコバッグを作ったりしてHIV/AIDSに関する知識啓発を行っています。

内容: タイ北部にある団体をカリタスジャパンは支援していますが、そこで作ったポスターを2枚掲示しました。また話題提供のきっかけに、男女の性別がある人形(オーストラリアから入手)を展示して、日本の人形になぜ性別がないのだろうかと来場者と話し合ったりしました。

オリジナル・レッドリボン付きエコバッグは持っているだけで、環境保護とHIV/AIDSについて話すきっかけになると評判でした。他の展示団体や来場者と交流がもて、カリタスジャパンの活動を理解してもらった機会になったと思います。

連絡先: カリタスジャパン HIV/AIDSデスク

〒135-8585東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館

Tel:03-5632-4439 Fax:03-5632-4464

E-mail:info*caritas.jp URL: <http://www.caritas.jp>





希望の家を支える会

「希望の家」は、タイのチェンマイ近郊にある、親をエイズや麻薬中毒、貧困などで失ったタイ山岳民族の子供たちを保護し、教育の機会を与える為の養護施設です。

内容:

施設での子どもたちの様子や山岳民族での活動の写真の展示。
 子どもたちの作ったポストカードの販売。
 「希望の家便り」の最新号や会の案内書の配布。
 創設者大森絹子氏が出演したテレビ番組の紹介。
 希望の家が取り上げられた「スマップ×スマップ」の紹介。

今年で3回目の出展になります。今回、会場で「アジアの女性と子どもネットワーク」さんが希望の家の子どもたちが描いた絵を展示されていました。かわいくて温もりある絵でした。展示方法や広報の仕方などとても参考になりました。他の団体とも情報交換ができ勉強になりました。毎回、展示内容が変わっていないので、次回は何か新しいことができればと思います。

連絡先: 希望の家を支える会 事務局

〒882-0051宮崎県延岡市富美山町338-48上野方 代表 上野敏子
 E-mail:ueno-kt3*ma.wainet.ne.jp URL:http://www.kibounoie.com/

今年は、
 中学生や高校生の
 見学がとても多く
 感じられ、
 嬉しく思いました

チョークディーの会

テーマ: 親をAIDSで失くした子供達に

タイのパヤオ県で親をAIDSで失くした子供達をサポートするNGO(ラックスタイ財団)のプロジェクト「コドモファンド」を支援しています。



内容:

『コドモファンド』のコミュニティーで子供達で作った刺繍で日本のボランティアの方がバッグや小物を作って下さり、その販売を行いました。

ラックスタイ財団で東北タイの女性達が都会へ出稼ぎに行かないで、生まれ育った土地の伝統ある染や織りを守り続けて作っている作品の販売を行いました。

今年は、中学生や高校生の見学がとても多く感じられ、嬉しく思いました。水谷修さんの講演会は、会場が満席になっていたのに、その方達が展示会場に流れて来て頂けなかったのは残念でした。3回目の参加で、多くの方々へ私たちの活動をアピール出来た事に感謝しています。

連絡先: 「チョークディーの会」

〒248-0036鎌倉市手広4-13-6

E-mail:

mieno.yamada.33616*kamakuranet.ne.jp

てのひら～人身売買に立ち向かう会

テーマ：人身売買・人権を考えるためのきっかけ

『人身売買を放置しない社会を目指す』を理念に、「人身売買や人権を考えるためのきっかけ提供」を行う社会啓発と、「被害の当事者に寄り添った支援」を目指す当事者支援が主な活動です。

内容：当会事業「カレンの手織り布プロジェクト」で扱っているタイ北部の山岳民族の手織り布を中心に展示販売しました。人身売買や当会の活動に興味を持って下さり、交流の場となりました。

連絡先：てのひら～人身売買に立ち向かう会 事務局
〒226-8799 神奈川県横浜市緑区中山町149-4 緑郵便局留
Tel: 050-1445-6947 Fax: 020-4624-7480
E-mail: tenohira_ycatip@hotmail.co.jp
URL: http://www.geocities.jp/tenohira_trafficking/index.html

社団法人日本家族計画協会

テーマ：「性＝生」を応援するユース活動の紹介

日本家族計画協会(JFPA)は、5Aをスローガンに掲げ、教育事業や教材頒布を通して思春期保健・母子保健の推進に取り組む公益団体です。

内容：日本家族計画協会は、「生＝性」を応援するユース組織“U-COM(ユコム:JFPA若者委員会)”の活動を支援しております。U-COMでは、STIやHIV予防の啓発用に制作したオリジナルケース入りのコンドームの街頭配布や、性に関する勉強会の開催など、15～24歳までの若者が中心となって活動を進めています。本年7月には、ピア活動の拠点として利用できる交流・情報スペース「ピアポルト」を開設し、保健会館新館(JR・地下鉄市ヶ谷駅すぐ)の1階ホールを毎月第二土曜日の13:30～17:00に広く開放しております。

今回の展示では、U-COMの活動紹介、コンドームやポストカードなどのオリジナル制作物の配布、「ピアポルト」の案内チラシの配布を行いました。また、本会が市区町村や学校に頒布している性教育教材の展示も行い、多数の方にブースにお立ち寄りいただきました。U-COMの活動、ピアポルトにご関心のある方、本会制作教材に関してのお問い合わせは、下記連絡先までお願いします。

連絡先：社団法人日本家族計画協会 リプロ・ヘルス推進事業本部
〒162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館
Tel: 03-3269-4727 Fax: 03-3267-2658 URL: <http://www.jfpa.or.jp>

神奈川県保健福祉部健康増進課

内容：HIV情報・リーフレット類配布

連絡先：神奈川県保健福祉部健康増進課エイズ・感染症対策班
Tel: 045-210-4791

東海大学国際交流サークル藍紅

内容：アフリカのエイズ孤児支援活動写真展

連絡先：神奈川県保健福祉部健康増進課エイズ・感染症対策班
Tel: 045-210-4791



ポラリスプロジェクトジャパン

強制売春などの商業的性的搾取、そして女性や子どもの性を利用した犯罪を失くすために活動しています。被害者層へ向けた啓発・ホットライン広報により、多言語での相談・支援活動を実施しています。またそれを元に社会へ啓発と提言を行っています。

内容: 私たちポラリスプロジェクトジャパンは、日本国内で広く発生している人身売買について展示をしました。「闇の子供たち」の影響もあって、人身売買などは国外の問題であるという認識の方が多かったため、国内でも、多く発生している問題であることは、来場された方の大半が驚きだったようです。

また、国際的な取り組みとして、「人身売買にNO」というプラカードを持ってもらい写真を撮り、それを各国の指導者に送るというキャンペーンを実施しており、多くの参加者の方々に、協力をしてもらいました。

私たちの団体が取り組んでいる問題は「人身売買」ですが、人身売買をされた結果、風俗店に売られてしまった女性はHIV/AIDS感染の危険に立たされています。AIDS文化フォーラムin横浜に参加して下さった多くの方に、人身売買とHIV/AIDSが深く関わっており、また人身売買が遠い国の問題ではなく、身近な自分の地域にも存在するという理解をもらうことができ、有意義な3日間でした。

連絡先:ポラリスプロジェクト

E-mail: info*polarisproject.org URL: http://www.polarisproject.jp/

人身売買にNO

日本ユニセフ協会神奈川県支部

世界の子どもたちの命と健康を守るユニセフ(国連児童基金)の支援活動

内容: アフリカのエイズ孤児の写真パネルを展示。サブサハラでは5カ国(スワジランド・レソトなど)を除く国々でHIV/AIDSの感染率が大幅に減少していること、それは母子感染予防サービスの普及や子ども向けの抗レトロウィルス治療薬が開発され普及されたためであること、しかし、両親をエイズで亡くした年長の子どもたちは残された家族の世話をしなければならない。当然学校へも行けず…。そんな子どもたちに、地域のNGOをサポートすることによって教育の機会を与え、食料の提供をしているユニセフの活動を紹介しました。ブースを通りがかった皆さんは、「ユニセフニュース」を配布すると、関心ある様子で反応してくださいました。

ユニセフグッズの頒布も行いました。(制作費以外の半額が募金になり、支援を待つ子どもの支援に充てられるものです。)多くの皆様が協力してくださいました。

連絡先: 日本ユニセフ協会 神奈川県支部

〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-6-23
金子第2ビル3F

Tel: 045-473-1144 Fax: 045-473-1143

E-mail: sibu*unicef-kanagawa.jp

URL: http://www.unicef-kanagawa.jp



ユニセフ支援市民団体ふれきしぶる

世界中の子供達が今より少しでも幸せになりますように。ふれきしぶるは1997年に創立された横浜市で活動するユニセフ支援活動をしているグループです。講演会・写真展・募金・勉強会・各種イベントへの参加を通じてユニセフを支援しています。

内容:1階展示ブースでは高校生・大学生100名に実施したHIV/AIDSに関するアンケート結果を展示しました。国等の広報活動や学校の授業でも取り上げられているAIDSではありますが、高校生・大学生共に、HIVとAIDSの違いを知っている人は30%台と低く、感染についても一回のセックスで感染しないと思っている人が高校生で約80%、大学生で約90%と多いことが印象に残りました。

連絡先:ユニセフ支援市民団体 ふれきしぶる 事務局長 吉田誠

Tel:080-5028-4443 E-mail:fureki_ml@yahoo.co.jp



一回のセックスで
感染しないと
思っている人が
高校生で約80%

横浜AIDS市民活動センター

テーマ: 予防啓発活動グッズを配布とパネル展示

横浜市が主体となって平成7年に開設。HIV/AIDS予防啓発活動、ニュースレター“おーぷん”の隔月発行や情報資料提供、書籍・パネル等貸出、AIDS関連活動団体への支援金交付等の事業を行っています。

内容: 今回のブースは、入口入って右側壁際でした。横浜AIDS市民活動センターの案内や啓発パネルの展示、啓発用リーフレット、コンドーム、当センターオリジナルのオーケース(コンドーム用ハードケース)等、配布を行いました。特に“オーケース”は、「昨年ももらって重宝している」、数名の高校生は「友人にあげるから」、学校の先生は、「生徒に具体的に説明するのにぴったり」など、いろいろな声を聞くことができ、役立てて頂いていることを実感しました。また、啓発用ガム:200個、啓発用リーフレット類ではトータルで610部、当センターのおーぷん108号、109号両者あわせて110部を配布しました。来場の皆様には、気持ちよく受け取っていただけました。ここに、AIDS文化フォーラムを実施する意義があると思いました。また当センターの人気マスコットキャラクター「コムちゃん」にも登場してもらい、横浜AIDS市民活動センター活動の意義を市民の皆様にご知っていただきました。

連絡先: 横浜AIDS市民活動センター 担当: 三浦・佐藤

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9階

Tel: 045-650-5421 Fax: 045-650-5422



閉会式



中学生記者、展示場直撃インタビュー！！

フォーラム開催中の8月3日(日)12:30～12:45、中学生記者(川崎市立富士見中学校保健委員会の皆さん)が会場1階展示場スペースで展示活動中の団体の方々にインタビューしました！

取材項目： 団体名 何回目の参加ですか？ どこから来ましたか？
どんな活動をしていますか？ このフォーラムのよいところを教えてください！ その他

<p>アジアの女性と子どもネットワーク 8回目 横浜 親のいない子の支援/タイの山の中の学校へ行けない子どもたちのための支援 つながりができる、AIDSについての知識がわかる、他のひとの関心を深められる</p>	<p>チョークディーの会 4回目 鎌倉 春と秋に駅の近くで出店、出展もの - 布製の小物で北タイの農村で女性がつくった物、出展でもうけた収益は親をなくした子ども達に寄付する いろんな人とふれあえる</p>	<p>NGOアフリカ友の会 2回目 東京 中央アフリカ・エイズ支援、給食サービス、予防/生活が苦しいひとのための支援 いろんなグループがあり勉強になる。企画やセミナーが楽しみ こじまさん、とくださんにインタビュー！ Q1どんな仕事していますか？ 保健所でAIDSの検査や相談、いろんな学校へ行き講演しています。 Q2なんでこの仕事を始めたのですか？ 病気を予防したらつらい思いをする人が減るからです。 Q3 仕事をしてわかったことはなんですか？ HIV/AIDSは自分たちにも関係があること。 Q4 みんなに伝えたいこと 自分のことを大切にしてほしい！！</p>
<p>かながわレッドリボンプラザ (YMCAハッピーホーム) 横浜 タイのエイズ孤児施設で子どもたちの世話をしたり、日本語や日本文化を教える 市民が中心となっているところ</p>	<p>カリタスジャパン 3回目 東京 会を開いてこうえんかい、人形をつかって説明、エコバック 他の団体の活動を知ることができる、HIVを通していろんなかわりやつながりがもてる</p>	
<p>東海大学藍紅！ 2回目 東海大学 南アフリカのエイズ孤児の支援と日本のAIDSの活動 いろんな団体の人と出会える</p>	<p>希望の家を支える会 3回目 東京 エイズで親をなくした子どもたちのいる孤児院の運営、先生のいない学校に先生を雇う みんなに活動を知ってもらえること、売った品物のお金の一部を活動に使える事、世界が広まり一般の人たちの声がきける場所</p>	

インタビューの感想



インタビューを聞きながら書いてたら、こんな優しい気持ちがあるかと思いました。

日本だけでなくいろんな国との支援があつてすごいと思った。

色々なブースがあつて各ブースごとにしていることは違うけど、みんな尊敬できることをしていると思いました。

たくさんの方が誰かのために頑張っているんだなあと思いました。

けっこうスムーズにインタビューできた。
チョークディーの会のブースは懐かしいような感じのお店！

AIDSのことを理解しよう！

中学生記者の皆さん、ご協力ありがとうございました！！！！

フォーラム全体集計表

2008年全体集計表

1. AIDS文化フォーラムin横浜を何で知りましたか？(複数回答あり)

	8/1(金)	8/2(土)	8/3(日)	合計	割合(%)
新聞	1	1	0	2	0
ホームページ	50	77	66	193	18
ポスター	6	4	12	22	2
DM	22	28	21	71	7
チラシ	44	77	35	156	14
知り合い	82	112	105	299	27
その他	77	121	78	276	25
無記入	15	38	19	72	7
計	297	458	336	1091	100

2. 参加者年齢

	8/1(金)	8/2(土)	8/3(日)	合計	割合(%)
10代	28	25	60	113	12
20代	67	104	83	254	26
30代	49	93	55	197	20
40代	60	77	59	196	20
50代	44	65	30	139	14
60代以上	9	28	10	47	5
不明	9	11	9	29	3
計	266	403	306	975	100

3. 参加者職業等

	8/1(金)	8/2(土)	8/3(日)	合計	割合(%)
保健医療関係	79	103	60	242	24
教育関係	58	63	37	158	16
学生	51	63	82	196	20
NGO/NPO	13	59	25	97	10
その他	43	79	68	190	19
不明	29	46	38	113	11
計	273	413	310	996	100

その他内訳(主なもの) 会社員、主婦、公務員、団体職員、保育士、福祉関係

わたしは、ひとりひとりの思いを
つなげて、世界を変えていく
きっかけに...!!
まずは伝えること。
そして命を繋げることに。
05



全体集計推移(2004~2008)

1. AIDS文化フォーラムin横浜を何で知りましたか?(複数回答あり) 図 参照

	2004	2005	2006	2007	2008
新聞	10	10	11	18	2
ホームページ	153	213	180	238	193
ポスター	21	21	7	13	22
DM	71	96	77	57	71
チラシ	201	204	140	143	156
知り合い	226	301	246	249	299
その他	162	186	187	230	276
計	844	1031	848	948	749

2. 参加者年齢

図 参照

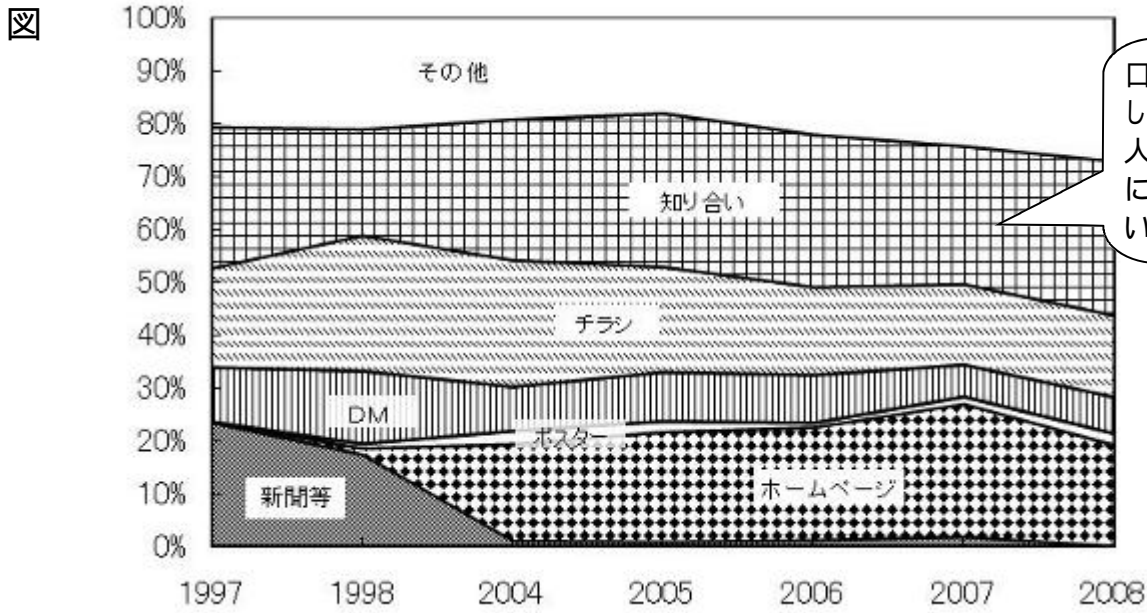
	2004	2005	2006	2007	2008
10代	86	112	112	98	113
20代	174	258	162	176	254
30代	138	167	140	208	197
40代	169	193	199	206	196
50代	130	124	82	138	139
60代以上	35	60	41	64	47
計	732	914	736	890	946

3. 参加者職業等

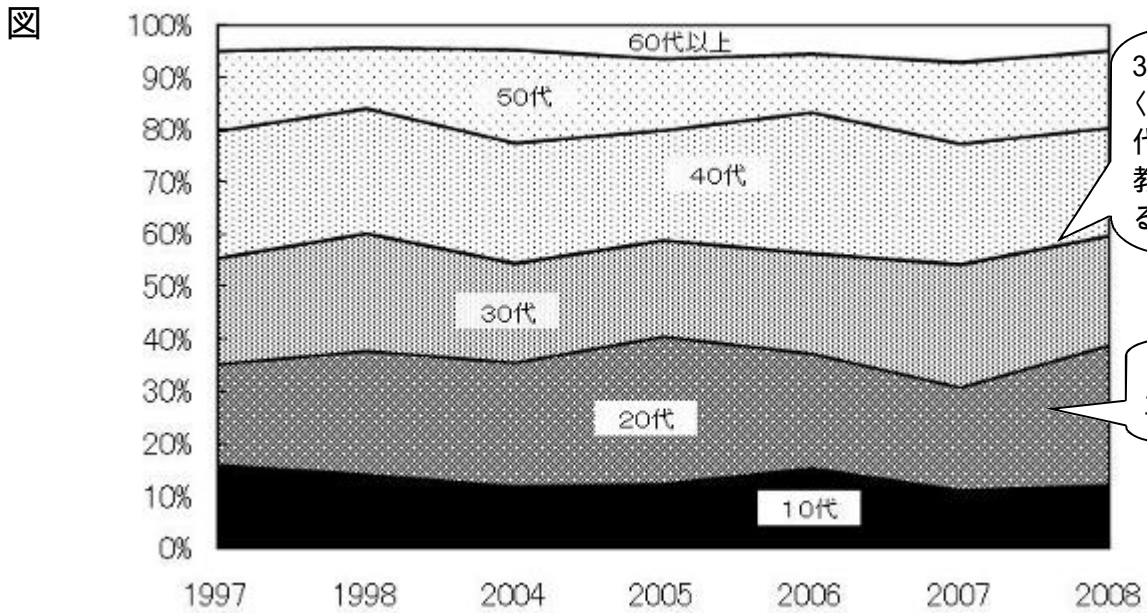
図 参照

	2004	2005	2006	2007	2008
保健医療関係	201	203	139	209	242
教育関係	156	218	172	191	158
学生	149	239	156	165	196
NGO/NPO	60	86	71	72	97
その他	116	127	114	182	190
計	682	873	652	819	883
その他内訳(主なもの) 会社員、主婦、公務員、団体職員、保育士、福祉関係					



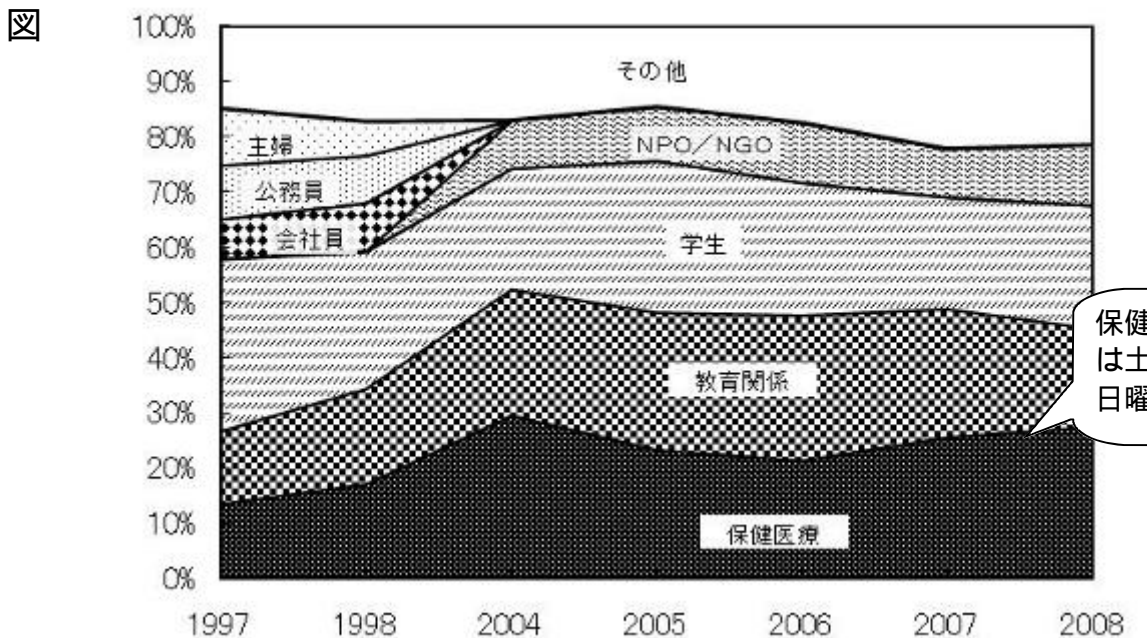


口コミで来る層が安定しているのは、参加した人がフォーラムの内容に満足し、評価されている結果



30-40代が全体の半分近くを占めるのは、その世代の保健医療関係者や教育関係者が来場しているためと考えられます

20代の来場者が再び増加傾向に。



保健医療関係・教育関係は土曜日に多く、学生は日曜日に多いようです

AIDS文化フォーラムin横浜 15年の歩み - 開催概要と経緯 -

開催年	1994	95	96	97	98	99	2000	01	02	03	04	05	06	07	08	
回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
会場	神奈川県			かながわ県民センター												
開催日数	8日間			3日間												
テーマ	1 市民と海外NGOによるAIDS会議 2 とともに生きる 3 とともに生きるから連帯へ 4 未来へのつどい 5 エンパワーメント～自立と協働に向けて 6 いまを生きる 7 いま一人ひとりができること 8 "							9 つながるつながる 10 AIDSこれまでの10年、これからの10年 11 いのち～市民が続けるAIDSへの取組み 12 つながる空間 13 つながる空間～Living Together～ 14 つながる 15 つながる～いま、私にできること～								
特徴	感染経路を問わず、AIDSとそれを取り巻く状況を、多様に、対等に、文化の視点で考えていく															
プログラム数	58	31	34	72	76	70	64	72	81	74	83	74	72	71	75	
参加団体数	40	26	28	56	50	47	49	52	56	55	66	60	56	56	60	
入場者数	4,305	2,200	1,600	4,607	5,694	3,240	3,801	3,946	4,808	4,624	6,031	5,509	3,880	3,689	4,170	
話題/社会	1 市民のエイズ会議/国際AIDS会議開催 2 母親が語る薬害エイズ/薬害報道の増加 3 性風俗とAIDS/薬害/薬害エイズ和解 4 映画・秋桜/カクテル療法 5 TV・神様もう少しだけ/障害者認定 6 複数作家の写真展/ピル解禁・感染症予防法 7 女性プログラム/女性用コンドーム・薬物乱用 8 バリアについて考える/ハンセン病に学ぶ							9 国際NGO・国際神戸会議/SARS 10 10年の振り返り/国際エイズ会議の延期 11 若者の参加/国際エイズ・バンコク会議 12 アジア・太平洋地区エイズ・神戸会議 13 第20回日本エイズ学会(池上千寿子会長) 14 国会議員に就任した川田龍平氏来場/ かながわレインボースターシップが横浜駅西口にOPEN 15 アフリカ会議横浜で開催								
来場者傾向	地元の市民が中心			全国から参加			医療・教育の 専門職増加		国際NGO等幅広く拡大				文化的側面からの アプローチ増加			
広報の特徴	ポスター/パンフレット			プログラムを全国の教育・医療 関係機関に配付					ホームページによる広報				ホームページへの アクセス増加			
マスコミ	取り上げ大から減少傾向			夏の定番記事として取り上げは定着するも社会的感心は薄れる												
組織委員	エイズに取り組む団体で構成し、フォーラムの社会的責任を負う															
運営委員	HIV/AIDSに関わる、医療関係者、教育関係者、NPO・NGO、行政の担当者等が個人として参画															
ボランティア	会場運営に市民ボランティアの公募 -小学生から70歳代までの幅広い参加-															
	かながわエイズボランティア育成講座の受講生のフィールドワーク															
				川崎市エイズボランティア講座の受講生のフィールドワーク												中学生記者
	夏休み学生ボランティアの増加・チーフボランティア制度															
事務局	横浜YMCA															
会場ボランティア改めサポートスタッフとして幅広く活躍																

市民による市民に開かれた手弁当フォーラム！

高額な参加費がかかる医療関係者中心の第10回国際エイズ会議(横浜)に対して、市民のためのエイズ会議を市民の手で実施しようという趣旨で始まりました。



第1回(1994年)：社会の中で偏見と差別のみ語られていたAIDSという病気に対し、ボランティアの働きによる新しい市民レベルの社会へのアプローチとして当時高い評価を得ました。

第2回(1995年)～第3回(1996年)：「第1回での成果を一過性のものに終わらせることなく、継続して欲しい」という全国のAIDSに関わるNGOや団体からの強い要望があり開催を継続してきましたが、社会的な関心の薄れと共に、参加者数の減少など様々な課題が明らかになりました。



新たな工夫と挑戦へ！～量から質へのシフト

徹底した評価・検証の中で、より積極的な取り組みを行いました。会場をかながわ県民センターへ変更したことに加え、運営体制の見直し、そして参加者のニーズにあうようにプログラムの充実化を図りました。

第4回(1997年)：「PWA(People with AIDS)のネットワーク」をテーマとし、PWA5名がプレゼンターとなり、ネットワークを組むために必要な課題と問題について議論するなど、感染者の方々の積極的な協力がありました。



第5回(1998年)：HIV/AIDSの治療薬が増え、HIV感染は慢性病になったと言われはじまりました。テレビドラマ「神様、もう少しだけ」がヒットし、社会的関心が一気に高まり、主演の深田恭子さんも来場しトークを行いました。

第6回(1999年)：1日のコマ設定を4コマから3コマに減らしたことで、各コマとも落ち着いた議論と交流が可能となりました。

専門職来場者の増加～継続することの意味を確認

従来からの「専門職が一般市民を指導・教育・啓発する」という発想を超えて、「市民側から専門職に情報交換の場と市民の手法を学ぶ場を提供していく」というように逆転してきました。全国の医療や教育の専門家からも期待される横浜の夏の恒例行事として定着しました。

第7回(2000年)：恋人とのセックスでHIVに感染した北山翔子さんとタレントの岡田美里さんのトーク、女性用コンドーム、ピル、と「女性」をテーマとしたプログラムが多く組まれました。



第8回(2001年)：パラリンピック金メダリストの成田真由美さんとHIVに感染している桜屋伝衛門さんのトークを通して「障害」という視点でHIV/AIDSの問題を改めて考える機会となりました。

第9回(2002年)：自らカンボジアなどでボランティア活動をしている有森裕子さんの話に多くの参加者が勇気付けられる内容となりました。

10年の振り返りと新たな取り組み～若者へのアプローチ強化

先進国で唯一感染者が増え続ける日本の状況を憂慮し、若者へのアプローチを強化しました。若者主体の企画や演劇・映像・音楽・アートを活用した、若者を引きつける会場運営を心がけた結果、多くの来場者を迎えることができました。



第10回(2003年)：脚本家の早坂暁さんが「HIV/AIDSを題材に番組を制作するとしたら」という設定で、俳優の鳥丸せつ子さんと共にドラマストーリーを考えました。また、若者の覚醒剤問題に体を張って取り組む水谷修さん(夜回り先生)の講演に多くの参加者が集まり、関心の高さがみられました。

第11回(2004年)：飯島愛さんを迎えて、エイズ・愛・セックスについてのトークショーを行いました。愛さんの明るいキャラクターと会場参加型の企画に大いに盛り上がりました。

第12回(2005年)：飯島愛さんと北山翔子さんがそれぞれの実験をもとに人を愛すること、そして生きることをテーマに語られた言葉は、来場者の心に深く響きました。また、会場ボランティア数は110名と過去最高でした。

つながる空間、本音で語る対話の場へ

ネットワークを広げ連携を深めるために、HIV/AIDSに関する様々な活動に携わる団体・個人との対話の場が増えました。その中で宗教や立場・活動・体験は違っても、豊かに共に生きることを教えられ、「つながる」ことの大切さを確認することができました。

第13回(2006年)：「エイズと宗教を語る」では、仏教、キリスト教、HIV陽性者の3者がそれぞれの立場から違いを超えて「つながる」ことの大切さを語りあいました。また、参加者から発表者となった医大生の遠見才希さんがPeer講座を担当するなど若者の活躍がみられました。

第15回(2008年)：近年高まっている教育関係のニーズに応え15もの教育を視点としたプログラムが開催されました。中でも学校でのエイズ教育を念頭においたセッションをエイズ教育シリーズと紹介し、最終日には「徹底討論～エイズ教育に求められるものは何か」を開催しエイズ教育に関わる来場者と本音で意見を交わしました。

第14回(2007年)：3名のHIV(+)の当事者がそれぞれの主治医とともに、患者と医療者の関係性(パートナーシップ)をテーマに語り合いました。長年にわたるエイズ医療に共に取り組むためにはコミュニケーションやカウンセリングを通して信頼関係を構築することが重要であると訴えました。

このつながりの中で出会えた
素敵な人たちに感謝!!

2008 AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち

主催 AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会

HIV/AIDS問題に取り組む団体の代表者で構成されています。「AIDS文化フォーラムin横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

構成団体:

(財)横浜YMCA 田口努 (組織委員長)	(社福)横浜いのちの電話 神原高尋
横浜商工会議所 エイズ問題対策懇談会 古田正一	(社)横浜青年会議所 高橋卓
(財)横浜YWCA 小阪仁美	カトリック横浜教区 古川勉
ワイズメンズクラブ国際協会東日本区 辻剛	

共催 神奈川県

毎年、共催として会場「かながわ県民センター」を提供しています。また、組織委員会、運営委員会にも列席し、関係者への参加依頼や広報をはじめとした事前準備にも協力しています。

担当:保健福祉部健康増進課 玉井拙夫 川上亮 八木下しのぶ 北村祐輔 栗原美里(インターン)

協力

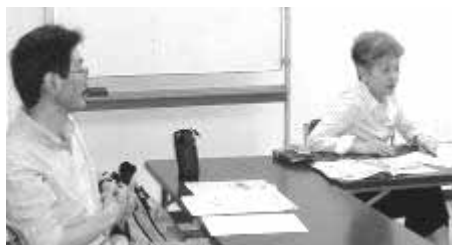
展示:(株)オカモト 飲料:(株)キリンビバレッジ、(株)ジャパンビバレッジ、(株)渡辺喜一商店

後援

横浜市健康福祉局 川崎市 横須賀市 相模原市 藤沢市
横浜商工会議所 神奈川県教育委員会 財団法人エイズ予防財団 ワイズメンズクラブ国際協会東日本区

企画運営 AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

フォーラムを実質的に運営するボランティアの集まりです。医師、保健師、教師、NGO/NPO関係者、アーティスト、大学生、共催・後援(行政)の担当者、フォーラム大好きでずっと関わりを持っている人など、色々な立場の人がフォーラム開催に向けて年間を通し活動しています。



伊東和子 猪谷亜子
岩室伸也 岩本雅子
遠見才希子 大江浩 岡島龍彦 糟谷潤 金井多恵 多田由香里
千代木ひかる 長澤勲 畠山雅行 彦根倫子 母袋秀典 吉永陽子 山田雅子
矢部尚美 渡辺誠二 渡會睦子

サポートスタッフ(会場ボランティア)

中学生から社会人までの幅広い世代から61名がサポートスタッフとしてフォーラム当日の会場運営を支えてくださいました。ありがとうございました!

阿南裕美 一柳英里 井筒幸乃 今井めぐみ 今井みの莉 今城宏子 及川裕美子 大石祐二 太田愛乃
大森夏実 岡村聡子 岡村嶺 岡村寛 笠倉敬弘 加藤利榮 北澤雪子 木村芳幸 桐谷智恵美 木村優
黒澤伸一郎 小泉守 齋藤志津江 斉藤富江 成保江身子 佐藤秀子 下間莉沙 品田佳那子 鈴野有助
筋野豊司 玉置舞 中島孝之 中島大輔 長島淑恵 田中誠司 寺山範子 針山佳子 バーンズ彩加
古川英司 増田正義 光吉亮平 水口聡美 宮りみか 宮森陽子 山中裕記 山口英樹 湯上和美 吉本ちひろ
川崎富士見中学校 中学生記者の皆様:矢川武 大森明穂 坂本竜一 須賀理香子 小沢葉子 鎌田歩
佐伯遼 羽田明宏 古川詩織 横山貴子 社由香里 大内千夏 中條礼奈 田中愛美 富澤美子

事務局 横浜YMCA

組織委員会、運営委員会の円滑な運営、年度を超えての継続的な開催を補佐します。

15年前にフォーラムを立ち上げる際の呼びかけ人となった横浜YMCAが継続して事務局を務めています。

担当:総主事室国際・地域事業 高村文子 白井美穂 佐藤絵里子

サポートスタッフ

毎年多くの方々の意識の高さに感動しています。職場の若手への啓発やふれあった方々に講師として、学校保健会の支部レベルでもお願いしていこうと思っています。今年も参加できて良かったです。(50代 男性 小学校教諭 参加3年目)



すごく勉強になりました。ボランティアしながら色々な方のお話を聞くことができ、一石二鳥!!中学生のときにも参加したのですが、その時とは違った印象をもつことができました。あらためて、AIDSの恐ろしさを知ることができました。また、普段は女子校という狭い世界にしか住んでいないので、色々な方と交流をもつことができて良かったです。ありがとうございました。(10代 女性 高校2年生 参加2年目)



「無知」な私も少しだけ開眼?できたかな?と思います。家に帰って、何か一つだけでも周りの人に伝えられたらいいなあ・・・(40代 はじめて参加)



各団体の運営をスムーズにするために、サポートスタッフがいることは良いことだし、責任もあると思います。いつも出会うことのない人と接することによって、人生の経験を得ることができ、また違った考え方ができるようになるので、大切なことだと思いました。今までボランティアというものに参加したことがなかったので良い経験になりました。(10代 女性 高校3年生 はじめて参加)



今回、初めてボランティアに参加させていただいて、受け付けから赤ちゃんのお守りまで、いろいろな体験をさせていただきました。AIDSは特別な病気と考えず、身の回りにあるだれでもかかりうる病気であるという認識を忘れず、Positive、Positiveでなかろうと、1人1人が持っている人権は平等であるし、ただ、免疫の面で考慮してつきあう必要があると思いました。(20代 女性 社員 はじめて参加)



来場者の声

つながるいま、
私にできること

AIDS文化フォーラムin横浜よこはまへのあなたの思いや
期待、感想などを自由にはってください!

AIDS文化フォーラムin横浜に
来てマジでよかった

もっと話そう!! 話 和 笑 輪!!

無力な自分、そんな自分に何が
出来るか、祈! 祈! 祈!
願うだけでも何かが違ってくるネ

わたしたちひとりひとりの思いをつなげ
て、世界を変えていきかけに!!
まずは伝えること そして耳を傾けること

ボランティアも主催者も参加者もみんな
が笑顔。あたたかいオーラム、来年も、
再来年もつづいていってほしいです。
心あたたまる出会いの場
ここにいられることが幸せです

私もエイズにならないように女性用
コンドームを正しくつかいたい。

みんながんばってるな~と思いました。

感染者が増えないようにこういっ
た活動が重要だと思います。ま
た、感染したとしてもそういった
方々が差別されないようにするこ
とも重要ですよね。

ワークショップなどとても
参考になりました。色々
な人に会えて素晴らしい
機会になりました。

ワトを見て、お父さん
やお母さんがいない子
どもたちがみんなが
がんばってるところがす
ごいと思う。自分もが
んばりたいです。

感謝 すること

エイズ文化フォーラムでの
出会いを大切にしています。
今年も素敵な人に会えました。

これからも活動がんばるぞー

思いやり

もっとたくさんの人(若いひとたち)にHIV/
AIDSのことを知ってもらいたいと思
います。ここに来た人たちが少しでも周りの人
にHIV/AIDSについて話をしてくれたら
いいなと思います!

「支援」でなく「協力」= 共に同じものに向
かって努力すること、を。
このフォーラムがずっと 続いて多くの
人に協力してもらえますように

まずは「知ること」から。

今回初めて参加しまし
たが、とても良いことだと思
いました。学校でもHIV、
AIDSの授業をしてきまし
たが、さらに身近に感じるよ
うになりました。

コンドームに感謝

おやがいなくてもどんどんせいちょうしてい
くどもたちがすごかったです。

AIDS文化フォーラムin横浜に連れて
来れました。新しいことも知ることが
できました。いろんな人の気持ちや思
いを知ることができて良かったです。

大切なのは「知る」こと。年齢・性別
関係なく、全ての人にHIV/AIDSに
ついて理解を深めてほしい。

とても貴重な経験をさせて頂きました。
自分に何が出来るか真剣に考えていき
たい。

AIDS文化フォーラム...それはたくさんの刺激に出会える場。いろんな人との
出会いの場。新しい発見の場。ぜ~んぶつながってつながって私になります。



2008(第15回)AIDS文化フォーラムin横浜 報告書

発行日： 2008年11月10日
発行者： AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会
編集： AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会
イラスト協力： もたいひでのり
連絡先： AIDS文化フォーラムin横浜事務局
〒231-8458横浜市中区常盤町1-7横浜YMCA内
TEL：045-662-3721
FAX：045-651-0169
URL：<http://www.yokohamaymca.org/AIDS/index.htm>

次回予告

「第16回AIDS文化フォーラムin横浜」

期間：2009年8月7日(金)～9日(日)

会場：かながわ県民センター

(横浜駅西口徒歩5分)



..... あなたも参加しませんか？

参加団体として！

HIV/AIDSに関する視点をもった内容であれば、どなたでもご参加頂けます。講演・ワークショップ・展示・演劇など、発表の形式は自由で、例年多くの団体が教育・若者・国際・PWA/H・医療といった多様な切り口から発表を行っています。毎年4月頃からホームページやチラシ等でご案内しています。(フォーラムの趣旨に沿わないと判断した場合は、お断りしています。このフォーラムにおける政治・宗教活動、営利目的、古い因習や差別的考えに基づいた活動はお断り致します。)

サポートスタッフとして！

会場ボランティア改め「サポートスタッフ」として、フォーラムに参加しませんか？小学生から社会人の方まで、幅広い年齢層の方々がフォーラムの開催を支えています。募集は毎年5月頃からホームページやチラシ等でご案内しています。

詳細はホームページをご覧ください！

URL : <http://www.yokohamaymca.org/AIDS/index.htm>